（日十月九年九十三治明）（可認物便郵種三第）
（午中無休刊）

京城日報

七日夕刊

定價 本紙 一部金二錢五厘 一ヶ月金六拾五錢 三ヶ月金壹圓九拾五錢 六ヶ月金 ... 一ヶ年金七圓七拾錢 ▲郵券代用二割增
廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲雜報欄內一行金壹圓 ▲場所指定一行金壹圓貳拾錢 ▲三號活字一行は二號活字同樣 ▲六號活字の一行は五號活字同樣の事

發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話番號 編輯用 二一四番 營業用 三五番 一六六番 振替貯金口座 京城三〇〇番

◎羅軍獨軍を攘ふ

ブカレスト來電＝羅馬尼陸軍省の發表する所に依ればドブルジヤ方面の羅軍は獨軍の退却を餘儀なくせしめたるが敵は退却の途ダエニガーリン、ロスマン、ガイダル等の諸村落を燒けりと（紐育電報）

◎希臘王黨の反對頑强

雅典來電＝王黨は今猶協商國加擔政策に對し頑强なる反對を表しヴエネゼロス氏攻擊を止めず將校のヴエネゼロス軍に投ずるを妨碍し居れり（倫敦電報）

◎波蘭王國建設の目的

獨逸及び墺匈は波蘭王國の建設を發明したるが其の眞の目的は獨逸が其の占領せる地方に對し行はんとする强制募兵を適法ならしめんとするにあり（倫敦電報）

◎獨帝國議會終に休會
各政黨議員の苦情

獨逸帝國議會に於て諸政黨の議員等は勅令を以て議會を休會せしむるに對して抗議し且政府が最近帝國議會に於て議員の述べし不平事項を考慮すべしとの保障を與へざるに對し苦情を唱へたり內相フエヒリツヒ氏は之に答へて皇帝は必要の場合には何時にても議會を召集し得べしと述べたり議會は終に明年二月十三日迄休會する事となれり（倫敦電報）

□皇后文展行啓

皇后陛下には十日上野公園に於ける文部省美術展覽會に行啓の旨仰出されたり當日展覽會場に於て御前運筆を御覽に供すべしと（東京電報）

◎最終の米作豫想高
水陸稻を合し一千二百四十餘石
大正三年の實收に比し三十餘石の增收

大正五年最終米作豫想高は水稻及び陸稻を合し一千二百四十四萬餘石にして之れを前年の實收高一千百三十餘萬石に比すれば百十四萬石の增進を示し又た明治四十一年朝鮮統計成りて以來未曾有の出來高なりし大正三年の實收高一千二百十餘萬石に比するも尙ほ三十餘萬石の增加にして其の實收額に於て果して大差なきを得ば本年の米作は實に從來の記錄を破れるものと謂ふ可し。本年は各地とも雨量概して多く地方に於ては四月より八九月に亙れる爲め一部には水害の災厄ありしも一般に出來極めて良好なりしのみならず南鮮地方は何れも作付反別に著しき增加を見たる結果、九月上旬に於ける各道の豫想高は著しく膨脹を告げしが其の後の狀況は當時豫想の程度に至らざるやの疑ひありしを以て總督府に於ては之れが發表を見合はせ更に精查の上愈々確實の見込を得て漸く今回の豫想高を發表するに至りたる次第にして此の豫想高を九月上旬の夫れに比すれば幾割の減少を示し居れりといふ之れに依て見るも本年の豫想高は從來に比し遙かに確實なる可きと共に本年の出來高が確かに新記錄を作れるや疑ひ無かる可し

◎伏見宮御觀戰

伏見宮殿下には七日御入洛遊ばされたるが九日演習地へ向け御出發相成る由承はる（大阪特電）

◎櫻井鷗村氏來る

鷗村櫻井彥一郎氏は七日午前八時五十分南大門驛著入京朝鮮ホテルへ投宿す

◎總督陪觀旅程

長谷川總督は八日午後四時東京出發、九日山陽ホテルに一泊の上十日博多著其れより陸軍特別大演習を陪觀し十五日出發同夜は再び山陽ホテルに投じ十九日歸東の豫定なり

◎李堈公御動靜

李堈公殿下は六日宮中の午餐に召され正午御參內、午後二時二十五分御退出相成りたる旨總督府に電報あり

▲御歸京期 李堈公殿下は九日東京御出發、十三日午前八時南大門驛著汽車にて御歸京ある旨其の筋に通知ありたり

◎立花中將出發

立花第十九師團長は大演習陪觀の爲め小出高級參謀を隨へ七日午前龍山出發福岡に向へり

◎古海總長出發

朝鮮駐劄憲兵隊司令官古海中將は太田副官を從へ福岡に於て擧行の陸軍特別大演習陪觀の爲め七日午前八時三十分南大門驛發列車にて往復約十日間の豫定にて出發せり

◎小松氏出發

小松綠氏は既記の如く家族を纏め七日朝南大門驛發汽車にて東上の途に就けり同驛には內鮮人及び外國人官民有志四百餘名の見送りありたり

◎開業當日成績
清津蒼坪間營業

淸會線の內淸津蒼坪間は既報の如く去る五日より營業を開始したるが當日の營業成績を聞くに乘客六百五十八人小手荷物一千九百七十一斤貨物百四十五噸にして之が總收入四百九十九圓なりと

◎大屋長官歸期

三線聯絡運賃問題再協議會列席の爲め東上中の大屋鐵道局長官は七日朝東京驛發歸任の途に就きたる旨其筋に通報ありたるが長官は途中京都に一泊桃山御陵參拜の上十一日午後九時南大門著列車にて歸任すべしと

◎三本理事歸任期

三線聯絡運賃協議會列席の爲め東上中なりし鐵道局理事三本武重氏は八日午後九時龍山著列車にて歸任すべしと

◎露貨下落

日滿連絡貨物引換代金換算率中東淸線及び烏蘇里鐵著の塲合は十一月三日より當分の內日貨百圓に付露貨百七十一留と協定されたるが露貨は從來に比し三留方下落せり

◎京城側の競願乎
米棉取引所問題

京城米棉取引所設置認可の申請は既報の如く東京、大阪、名古屋の有志二十餘名によつて企てられたるが同申請書に署名したる發起人が全然取引所の仲買人のみを網羅し別に有力なる實業家の加はり居らざることは京城方面の實業家をして痛く失望せしめたるもの丶如く二三の實業家に對し特殊の勸誘を爲し來りたれども今俄かに應ずべき氣配なきのみならず若し今後とも現在の發起人以上に新顏觸を見ざるに於ては或は京城の實業家のみにて別に競願をなすに至るやも圖られずと某實業家は語れり

◎憲政會の對策
最高幹部の低意

憲政會最高幹部の眞意は今日に至るも未だ世上に發表せられざる爲め硬軟何れとも判定すべからざるも實は既に策戰計畫成り政戰後の對策に思ひを凝せる早手廻しの總務もあり、議會開會の劈頭に不信任案を提出すべしとの說は昨今幹部硬論者の間に唱へらるれども這は從來の先例に徵するも到底成立する事難かるべきを以て結局は豫算會議に於て充分現內閣を質問糺彈し議會の空氣を險惡ならしむると共に一面には解散後の攻擊材料を豐富ならしめ院內外の機勢の熟するを待ち二月中旬を以て最後の强襲を試みんとの底意を有し居るが如く此の方針を以て專ら地方支部發會式及び大會の氣勢煽揚に努むる戰略を採りつゝあり（東京特電）

◎龍山委員の府訪問

龍山の各町聯合會の決議にかゝる市政改良問題十箇條に就ては既に其の關係官廳に對し請願書を提出したるが更に何ほ口頭を以て詳細其筋に陳述するの必要ありとし石原、木谷、大村、大和の各委員は六日午前九時より京城府に金谷府尹石原事務官を訪ひ龍山の下水及び道路工事の改良につき申請する處ありたり其結果京城府にては九日午前九時より石原事務官、成松土木主任等實地の視察を爲すこととなりたり

◎神社基本金引繼

京城府の今日迄管理し來りたる京城神社の基本金寄附金其他合計六百八十餘圓は今回氏子の經營となりたるにつき七日谷村神職に引繼を爲したり

◎山田氏家族出發

朝鮮銀行馬務局長山田松熊氏夫人及び家族一同は七日午後七時五十分南大門驛發にて東京に引揚ぐる事となれり

◎醫師試驗終了

朝鮮醫術開業試驗は客月十一日より總督府醫院構內醫學專門學校に於て擧行し當初受驗者內地人十四名朝鮮人四名合計十八名なりしが學說試驗の結果合格者九名となり引續き實地試驗擧行中なりしが愈々七日を以て終了せり因に右成績は九日午後に發表さる可し

◎三農學校生徒著京

大分縣立農學校職員生徒一行二十七名は七日午前八時五十分釜山より宮崎縣立農學校職員生徒一行三十五名は同八時開城より大邱農學校職員生徒一行二十五名は同日午後二時五十分水原より孰れも入京原金旅館に投宿せり

◎軍司令官檢閱

朝鮮駐劄軍總司令官秋山中將は六日午後四時五分南急行にて來邱し新築營舍其他各部隊檢閱即夜金久保旅團長邸にて晚餐會を催し七日午後四時五分の南急行にて大演習陪觀の爲め福岡へ向け出發せり（大邱）

◎京畿道謝恩使

曩に寺內前總督に對する謝恩使として京城府鮮民代表趙鎭泰氏の東上を見しが追回又京畿道鮮人側有志者の推薦により開城の名望家金基永氏を一道の代表謝恩使として派遣したる處六日其任務を果したる旨某所に通知ありたり

◎寺內首相の答電

五日夜明月館に於て催されたる謝恩使歡迎の席上寺內首相に對し發したる電報に對し首相より『御懇篤なる貴電を謝し各位の御健勝を祈る』との答電代表者趙子爵宛到著したる由

◎德富監督江華島行

德富本社監督は七日午前八時五十三分南大門驛發同十時仁川驛著松元仁川警察署長、飯田米豆取引所社長、其他有志の出迎を受け直ちに稅關第一棧橋より乘船江華島へ向け出發したり豫定は草芝へ上陸傳燈寺一泊の上八日午後仁川歸著五時三十分發急行にて歸京の筈

◎三和銀行認可

株式會社三和銀行は十月二十五日株式會社組織の許可ありたるが取締役社長富田儀作氏は直ちに營業許可の件其筋に申請中なりしが十一月四日附けを以て總督府より道廳及び鎭南浦府廳を經由して同氏に營業許可の指令を交附せり（鎭南浦）

◎大豆運賃問題訂正

十一月七日朝刊二面所載大豆運賃問題記事中三十二行目『大小如何に拘らず代表者全體』は當業者全體の誤り四十行目『同業者をして活動せしむる』の下は『活動せしめざる可らず否らざれば』と訂正して四十二行の到底協定に達せざる云々に續く

北朝鮮へ 第六信
四日全羅丸にて 西海生

□新浦を經て城津

▲三日正午入港せる前津は一小漁村に候、內地人も三四十人より住まず、殊に何等產物なければ、常時發著の荷物も極めて僅少なる由にて碇泊約一時間直ちに拔錨す、此邊稍波荒く船客は概ね其の寢床に仰臥致し候

▲小生は讀書にも倦み、何時か夢路を辿り候、午後三時ボーイの來りて小生を起せし時、船體の動搖も著しく靜まりし事を知り候、乃ち船は將に馬養島を右舷に望み新浦港に入らんとしつゝある也、新浦は有名なる北鮮明太漁業の中心地にて一園の漁村にも何となく活氣の動くを望まれ候、海岸の空地に木を林の如く樹て其上に棚樣の物を造れる明太干場大いなる商號を附せる大倉庫等特に目に著き候

▲新浦は內港深く入り込み馬養島北風を防ぎて水深淺からず、元山淸津間唯一の良港と承はり候、港は南を受けて珍らしき溫暖の地雪多き北鮮の冬にも三寸以上の積雪を見ず、成程海岸の一小丘に楢楓葉の眞紅今を盛りと眺めらる、例年明太は十一月十四五日に至らざれば初漁を見ずとの事なるが、本年は潮の關係よりか十月末日初めての大漁あり、二日南行の朝鄭丸にて一千七百個の明太の子を下の關釜山京仁方面に發送せしと云ふ、北鮮の盛衰は明太漁の豐凶に係る事多し、本年約半月も早く初漁あり、漁兒の幸先きよしと漁夫等は喜び合ひ居れりとの事に候

▲午後七時新昌に入港、今夏來甲山久原銅鑛の採掘準備進捗に伴ひ其最も近き港として機械類其他の陸揚げは殆ど全部新昌港よりなす爲め可なり活氣あり殊に咸南の大市場北靑の玄關として昨今二百人の內地人ありとの事に候、現に全羅丸の如き北靑行き諸雜貨及び久原銅山仕向けの器械類等約十七萬斤を積載し居たる爲め、其荷役に七時間を要し、漸く四日午前二時半出港出來候

▲四日朝、大豆を以て有名なる端川に入り投錨、聞く所によれば此邊一帶の豆は近年稀有の上作にて一萬石餘の移出能力あり今後其の爲め入り込み居る內地商人も少なからずとの事に御座候、既に買込南下は夥しかるべく、九時出帆北航す、天氣晴朗、海上靜穩、左側近く北朝鮮の連山を眺め、右は蒼茫たる日本海の連らなり也、午前十一時城津に入港致し候

▲此日城津港に碇泊するもの前日西湖津にて分れし北行の商船宮島丸、朝鄭鏡城丸、南行朝鄭の平壤丸、穩城丸並に吾が全羅丸の五艘あり、數日前の風波は各船の定期に狂ひを生ぜしめ、偶然港內に其の船影を多からしめたる也、城津に五隻の汽船とは實に稀有の事にて港民の目を驚かしたるらしく候、正午前上陸市中瞥見仕るべく仔細は後報申上ぐべく候（四日正午發）

仁川

▲神社々掌新任 上野堅一、磯野勝見の兩氏は二日附を以て何れも仁川神社々掌に補せられた

▲兩汽船寄港見合 四日市に寄港す可き三河丸相模丸の兩汽船は客月三十日以後當分仁川に寄港を見合はす可き由

▲金光教會說教 金光教會朝鮮管理者本部宣教師高橋大敎正文學士田地匡の兩氏は七日午後八時四十分杻峴驛著八日及び九日の兩日午後八時より寺町仁川教會所に於て說教を爲す筈

▲和田高女校長出張 仁川高等女學校長和田英正氏は十一月四日附を以て東京、奈良、新潟、廣島の一府三縣へ出張を命ぜられたるが出發は十日頃にして二十五日間の豫定なりと

▲ミシン會社寄附 シンガーミシン會社仁川分店閔藏氏は仁川高等女學校へ刺繡額面價格二圓を寄贈せり

平壤

▲品評會審査成績 既報平安南道大同郡地主會主催大同郡一圓出品物品評會審査成績は出品區域大同郡一圓出品點數蘿蔔九六點菜類六二点蕃椒六七點南瓜三七點牛蒡十三點葱一五点胡蘿蔔七點甘藷一一點計三〇八點出品人二九人受賞者總數八〇人內一等一〇人二等三〇人三等四〇人なりしが本品評會の爲平壤公立農學校長高山徹氏審査長の任に當れり

▲鐵道局技術員來壤 鐵道局技師中野保同丸山忠作氏外五名は工務の爲十一月五日來壤大同館支店に投宿せり

▲一部長出張 平安南道第一部長篠田治策氏は學務係金書記を隨へ十月五日より向十日間の豫定を以て順川安州价川寧邊の四郡地方狀況及學務視察の途に上れるが多分歸任は十五六日の頃ならん

木浦

▲客月木浦貿易額 十月中に於ける當港貿易額は輸移出價格十三萬四千五百二十五圓輸移入價格十七萬九千十七圓合計三十一萬三千五百四十二圓にして四萬四千四百九十二圓の輸移入超過なり之を前年同期に比すれば輸移出七萬五千八百五十三圓の減少輸移入三千三百三十五圓の增進差引七萬五千五百十八圓の減少なり更に九月に比すれば輸移入一萬二千百七十六圓の減少輸移出七萬五千七百二圓の增加にて差引六萬三千五百五十六圓の增加なり

▲女學校問題 愈般總會を開き新活動に入れる木浦教育會にては一日午後三時より小學校に第一回幹事會を開き各幹事出席吉村氏より長野幹事より宮木道長官に陳情した經過の報告あり種々協議の結果愈々來年度より設立すべく學校組合に希望するに決したり

▲棉花買收狀況 棉花は買收價格は左記の高値なるも本年は天候の爲め開業遲延の結果出廻り少なく各買收所とも頗る閑散なり今分にては最盛期は本月末より來月上旬ならん因に三棉業會社操綿開始期は目下の狀態にては多分本月末ならんか

木浦指定價格は

一等棉 金十七圓四十八錢一厘
二等棉 金十五圓七十一錢
三等棉 金十二圓十四錢四厘
四等棉 金八圓五十八錢五厘

釜山

▲市街電車發展 釜山瓦斯電氣株式會社の經營せる市街電車は市內縱貫の一部なる埋立地より大廳町を經て富城橋に至る線路の布設を終へ過日來運轉を開始したるも客車不足の爲め十五分を隔てゝ發車せしめつゝある有樣にて市街電車としての效用少なしとの批難あるを以て同社にては以前東萊南門間に使用せし輕鐵特別車輛を改造し電氣機を据付中なるを以て近日發車度數の增加を見るべく尙同社經營の東萊溫泉場も浴場の改造其他一般設備を改良し浴客の便利を謀り居れば近く面目を一新すべし

▲船舶職員試驗 釜山海事出張所にては來る十日より船舶職員試驗を開始する筈なるが受驗者數は二十三名なりと

▲狩獵免狀下附數 十月一日より本月六日迄に狩獵免狀下附を釜山警察署に出願せしものは甲種一名、乙種五十名にして昨年に比し甲種一名、乙種九名の減少なりと

人事消息

▲高柳松太郎氏（東京製綱所長） 七日朝入京朝鮮ホテルへ
▲岡虎太郎氏（滿鐵社員） 同上
▲山室宗文氏（三菱銀行部業務課支配役） 同上
▲稻田勝彥氏（仁川商業會議所會頭）▲河合律五郎氏（同書記長）▲和田友太郎氏（同書記） 七日朝入京仁川へ
▲田中修吉氏（東京日日新聞記者） 七日朝入京天眞樓へ

□烏兎子に寄す 東京 左衛門

延びながら此佳辰に方り御榮轉を祝す、萬歲。

菊抱いて俥に乘るや面映ゆき

公告

當會社株式第貳回及第參回拂込未濟ノ方ハ拂込金百圓ニツキ一日四錢ノ延滯利息ヲ附シ來ル拾壹月貳拾日迄ニ御拂込相成度萬一右期日迄ニ御拂込無之ニ於テハ以後株主タル一切ノ權利喪失可致候爲念仍而此段公告候也（午後四時迄ニ到著ヲ要ス）

大正五年十一月四日

大阪市北區曾根崎新地三丁目四十七番地

朝鮮煙草株式會社

緊急廣告

東洋拓殖株式會社理事 林市藏、井上孝哉、村田俊彥の三君此度辭任歸東せられ候に付左記方法に依り送別會相催し度候間御賛同被下度候

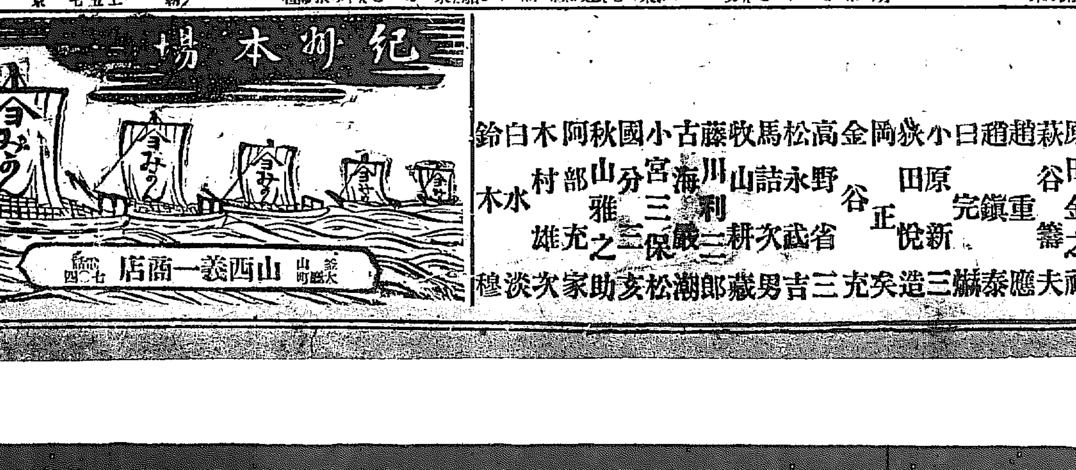
一日時 十一月八日午後正六時
一會場 花月樓
一會費 金五圓也
一申込場所は長谷川町銀行集會所又は花月樓

○注意 會場準備の都合有之候間必ず來る七日までに御申込相成度候

大正五年十一月六日

發起人（イロハ順）

石塚英藏 原田金之祐 萩谷籌夫 趙重應 趙鎭泰 白完爀 小原新三 狹田悅造 岡正癸 金谷充 高野省三 松永武吉 馬詰次男 牧山耕藏 藤川利三郎 古海嚴潮 小宮三保松 國分三亥 秋山雅之助 阿部充家 木村雄次 白水淡 鈴木穆



ヒユースかウヰルソンか

●七日は大統領選擧
米國は大騷ぎ＝ヒ氏が捷たう
小玉吞象の卦に曰く風澤中孚

昨年米國を漫遊して當時全米の大問題であつたウイルソン大統領の結婚問題を占ひ新夫人との成否を豫言したとて大好評を博しヤンキー婦人の弟子入り迄申込まれた例の易占大家小玉吞象子は目下長春名古屋館に滯在し日支官民の需に應じつゝあるが共曾遊の地たる米國の大統領選擧の結果を占つて曰く米國大統領の選擧も愈々此十一月七日に行はれる事になつてゐますが

▲民主黨の候補者 として名乘りを揚げた現大統領のウヰルソン氏と共和黨より打つて出でたるヒユーズ氏とは目下互角の勢ひで日々の外電を見ましても勝敗の決は其何れにあるかを疑はしめる位でありますそこで此中原の鹿を射止めて大統領の榮冠を頂く勇者は誰かを豫知するのも時節柄面白き趣味ある問題だらうと思ひます、易占に現れた共和黨の氣運は風澤中孚と云へる卽ち二人の密談一致團結して其結果が甚だ堅固なる卦面であつて之を事實に徴する時は以前分離したるルーズヴェルト派の進歩黨を好く同化せしめ黨勢大に揚がり爲めに最後の勝利はヒユーズ氏の手に歸し

▲合衆國は五年目 にして再び共和黨の天下となるに至るの易占で今より祝杯を擧げてヒユーズ氏の勝利と健康とを祈つて居る次第であります」云々（長春）

●殊勳の名犬
釜山から米國へ
キネル倶樂部第一の探偵犬

四日釜山棧橋發の關釜連絡船櫻丸にて東上せし米國外務部露都駐在員チヤレース、エー、カバー氏と云へるが携へ來れる身長四尺、丈二尺五寸許りの茶褐色に黑の横縞ある見るからに猛々しき一匹の犬は金銀各種メダルを懸くるものにて彼は戰爭中常に英佛戰線に至り赤十字社に屬し軍事勤務に就き居たりその任務は藥品を頸に掛け負傷兵多數の中を驅け廻り機敏なる働きをなし或時は野戰病院の近距離にありたる一人の重傷兵を咬へて連れ來る抔殊に獨探を臭ぎ出す事に妙を得、英佛人中偶々獨逸帽を用ひ居るものを發見するや直に之を咬み破る等の敵愾心をもあり是迄獨探を檢擧せし事尠からざる由にて其功により前記多數のメタルを授けられたるもの、由氏が最近倫敦に赴きたる際强て所望し二千弗を投じ携へ來りたるものにて近々横濱出帆のエンプレスオブロシヤ號にて歸國ウヰルソン氏に贈るものなりと

■萬一の時は此電話へ

追々寒くなりまして火災の時季となりました若さん萬一の時には何より先きに消防隊へ電話をお掛けになれば消防隊の到着が早い丈け危害も損失も尠いのであります京城の消防隊の電話は左の通りでありますが公衆電話から消防電話をお呼びになるときは「番外」と呼び更に其番號を呼ばれれば御話が出來ます

公衆電話　四五八番
警備電話（番外）一番南大門消防隊
同　　　（番外）二番黄金町消防隊
同　　　（番外）三番鍾路消防隊
同　　　（番外）四番昌德宮消防隊
同　　　（番外）五番德壽宮消防隊
同　　　（番外）六番光化門前消防隊
警備電話（番外）七番南山町消防隊

●婦人轢死を遂ぐ

タル十一個を頸に掛け居る異様の風は先づ人の注目を惹しが氏の語る處に依れば該犬は英京倫敦なるエーデル、キネル倶樂部と云へるに無敵飼養せる探偵犬のチヤンピオン中第一を以て目され居るエツリー、ツルダブ……帯を纏ひパリンス……ホールと木綿……を以て作れる猿又を穿ち年齡四十五……に附したりと（大邱）

●連絡船上陸客

六日午前……之助、原田繁一、岡紅子、竹内龜吉、原照子　三等（百十一名）

●金鑛
五千圓を流失す

島根縣邇摩郡福浦村小林清次郎の所有帆船は去月二十五日元山より金鑛百四十噸時價五千圓を積載し岡山縣大島に向け航行中同月二十八日午後八時頃迎日郡滄州面大浦里の海岸を距る南十哩の沖合にて烈風激浪に襲はれ船底に大破損を生じ積載鑛石全部を流失したり乘員七名は直ちに母船搭載のテンマに乘りて陸に泳ぎつきしが損害は船體三千圓積載鑛石五千圓なりと

●神戸に眞性鼠疫

神戸に於けるペストは愈々眞性と決定せり（大阪特電）

●小學生徒
爆發彈を踏む
脚部三箇所に負傷す

慶南馬山尋常高等小學校五學年以上の男生徒百八十餘名は職員に引率せられ本月四日午前九時大黑山の學校林手入に出掛け各生徒職員は分擔にて松の手入に餘念なき時も折轟然一音響起りたるより何れも大に驚き音の起りし個所に驅け附けたるに高等科二年生本岡某（一五）が野獸を獲らんと投げ居たる爆發彈を踏みたる爲めなりと判明したるが本岡は幸にして脚部に三箇所輕微の負傷せしのみにて重傷ならざりしは幸なりと（馬山）

●戰友に遺書
一等卒の轢死

獨立守備隊第三中隊一等卒後藤光藏は鳳凰城分遣隊に出張中五日午後より行衞不明となりしが六日午前一時過ぎ長嶺子附近にて貨物列車進行の際轢死を遂げたり戰友に宛てたる遺書ありしが死因に就ては不明なり（安東縣特電）

●死因更に不明
釜山轢死青年の身元

去る四日夜釜山鎭附近にて年若き內地人が轢死を遂げたる事は既報の如くなるが該轢死者は福岡縣宗像郡上西郷村生れ當時釜山西町三丁目酒商山脇忠三郎方に同居せる釜山郵便局爲替貯金課勤務篠崎美登士（二五）なること轢死の際所持せし認印より判明したるが美登士は去る明治四十三年頃より釜山郵便局に勤務し漸次昇進して現今は一箇月三十圓の給料を受け下宿屋暮しを爲し居れるを前記の山脇忠三郎は親族の間柄なるより同人に妻帶を勸め幸ひ同縣淺倉郡出身にて釜山土城町に雜貨商を營める淸武伊三郎の長女ふさゑ（二一）を娶ることに相互の話を極め富平町の寺島某の媒介にて去月三十一日の夜芽出度結婚の式を擧げ夫婦仲も睦まじく四日の夕方には友人の許に行くとて家を出でたれば家族は何の氣もなく臥したるが翌朝に至るも歸り來らず日曜日のことなり別に心配もなさず居たるに翌日の新聞にて篠美と刻しある認印を所持し居れる轢死者ありたりとの記事を見て一同大に驚き六日の午……

●內地人に化けた賊

全羅南道麗州郡東內面生れ金漢春（二一）は嘗て日本船の船員となりしことあり本年五月頃神戸に到り同地を彷徨し居たるも思はしきこともなきより去月十八日釜山に來り牧の島の鮮人宿に止宿し居れるが同人は平常洋服を著し日本語も自由にて一見內地人と見紛らるゝを利用し著釜の翌十九日長手通五十號質屋に大池商店員と詐り縮緬の兵兒帶（價格五圓）を同廿一日寶水町一丁目廣木利兵衞方にて釜山煙草會社々員と詐り赤皮靴一足（價格八圓）を詐取したること野々上刑事に探知せられ釜山警察署に拘引し餘罪取調中なるが同人は曩に辨天町三丁目木村金細工店にて指輪一個を掠ひて處分せし間もなく土城町洋服店軍港屋にて釜山煙草會社々員と詐稱し軍服一著を詐取し尙慶州にて一犯都合前科四犯あり此れ迄被害者よりは日本人と見誤りて屆出ある爲め搜索上に困難したりと

●明巣覗ひと火事が多い
これからは戸締りと火の用心

朝鮮各地も虎列拉で大分騷されたが昨今殆ど終熄の姿となつた、是に代つて季節は泥棒と火事との時季に這入つた、京城の某警察官の談に依れば大抵毎年十一月から翌年の三月頃迄が盜難被害が多い、泥棒などには別に一定の期節が定つてゐる譯ではないが一體に

▲冬の寒い間は 夏よりも生活が困難に陷る關係上、食ふに困るやうな朝鮮人などは隨分京城にも多いものだから隨つて小泥棒が殖ゆるのである、併も薪炭や食物泥棒さ言つたやうなものが出來るのはこれからである、是等は要するに搔つ浚ひと空巣狙ふことが專門で家に人影さへ見えなかつたならば、何でも食物でも選ぶ所はない悉く持つて行く、而も斯樣な小さき品物を持つて行くのは警察の方でも犯人の檢擧が却々に難かしい上に斯品の如きも何所の家でも在るやうなもの計りであるから發見することが容易でない、爲めに

▲被害者に對して は氣の毒のことが度々ある、併かし賊の侵入するだけの空隙さへ與へなければ盜まれる氣遣ひはないのである、それから忍び込んで大泥棒を行るのは大抵夜間であつて是には內地人の賊が多い、合鍵や小刀等の道具を使つて忍び込む若夫婦の多い京城では活動寫眞見物や芝居見などに行つた留守中家財を悉く竊まれた例が尠くない且內地に住まつてゐると違ひ財産が

▲柳行李の中に 納めてあるものが多いから賊の方でも餘程都合がよい彼等は家に忍び込めば先づ火鉢の火の埋め方に依つて家人の行動を探知する程であれば却々に油斷が出來ない、京城では一般に家の構造が粗末で、戸締の不完全のものが多い、爲に中腰に忍びてあるやうな錠前の如き少し力を籠めて引けば容易く手に抜けるやうな次第で何等の效力もない、戸締を嚴重にするといふことは肝要である、次は火の用心である、火災は殆ど注意不足の爲めに起ることが多く、放火又は自然發火の例は甚だ少ない、而して其の時季も大抵十一月から翌年三月迄が多い、京畿道警務部の調査に依れば毎年十一月から三月迄は京城府內發火度數が

▲一箇月に十回 以上になつてゐる多い月は四十回以上に達して居る、併かし消防隊の働きが目醒しいものだから發火度數の割合に損害は極めて輕微である、試みに重なる發火原因を調べて見れば溫突の不完全から發火したものが最も多い、次は竈の破損に基くもの、火鉢や炬燵を轉倒し又は過熱の爲めに發火するに至つたものである、其他の原因は割合に寡いが洋燈、燐寸又は石油、蠟燭及び提灯、煖爐、風呂場、焚火、弄火、煮沸の油、藥灰、漏電なども、ある、是から火氣扱ひが激しくなる、から各家庭では主婦を初め

▲一般火の用心 に注意を拂ふことは今更繰返す迄もないことである、消防係員の談に依れば發火すれば已むなく消防係が活動して消火せねばならぬが、要は當各家庭の方で發火せない樣に注意して戴きたいものだとの事だ

八寶加卜秘史（六）
蒙古八旗に傳へて遠征の軍を整ふ

滿朝退位の後、八寶加卜は滿朝譜代恩顧の人々及び滿洲八旗の人々が如何なる態度を取るかを多大の注意を以て凝視して居つた而して一省の督一城の主も滿朝の爲めに義を唱へ淸國の終りを飾るべき

□忠義の人は 一人も現はれなかつた古來支那の中原及び地方に大の國を起したる者百數千其の滅亡の時に當つては多少は殉國忠義の血を流さなかつた事は無い然るに淸朝の終りに於ては一人の立つて義を唱ふる者は無い之れを見た八寶加卜は此の腐敗し墮落し切つた人心を深く憤慨し己れ微力ながらも滿朝の爲めに滿蒙の旗人を率ひ漢人を壓伏して滿朝を再興せば之れ忠孝の兩立なり努めざるべからずと自分から勵まし

□形勢を觀望 して居ると淸廷に勸めて退位せしめた袁世凱は大總統に陞り遂に帝位を望むに至つた八寶加卜は今こそ吾が起つべき時は來れり旅順に居住して居らるゝ肅親王に謁し淸廷再興の義を擧ぐる事に就て籌り其の令旨を請ひ且つ第八王子を奉戴して克魯倫に歸り直ちに肅親王の令旨を蒙古八旗に傳へ克魯倫に於ては直ちに遠征の軍を整わ本年一月黃龍旗を押立て總軍四千餘名乘馬一萬食用の羊四萬頭を先頭に追立て大集團を爲して克魯倫河を渡りて東に向ひたるは元太祖鐵木眞の

□遠征の壯擧 を再び見る心地に車臣汗の老若は盛に其の成効を囃に祈り漠北の喇嘛僧亦悉く克魯倫河畔に集合して戰勝を祈り小喇嘛佛の像に守札を各將校より下一兵卒に至るまで其の頸に懸けた斯くて八寶加卜軍は四月大興安嶺の西麓に出で三隊に分れ一隊は羊の大群を飼養しつゝ大興安嶺を迂廻し一隊は索倫山を經て南下せんとし一隊は八寶加卜自ら將として喇嘛泌に入り其の兵力を併せて直ちに大興安嶺を越から突泉縣を占領して他の諸隊と合し直ちに

□奉天を衝ん と圖る、突泉縣を占領したる以後郭家店引揚げ迄は既に世間に傳へられた處である、郭家店に於て我守備隊の抗議に依り引還す途中開通縣に於て支那軍の爲めに要擊されて戰死せりと傳へられて居るが其の眞僞は未だ確かではない、しかしながら八寶加卜にして死せざれば彼は再び三度淸廷の爲めに義を唱へるであらう（終）

□京城秋八景—（一）新柄の陳列

ルネツサンス式の白いアーチから差し込む光の中に雜然たる色彩が——天井に吊られた江戸褄模樣、それを見る娘の袂のセヽツシヨン模樣、若い妻君の帯の光琳式、陳列棚に溢れた友染模樣、それ等から放射する種々様々の色彩が——廣い樓上に入り交つて躍つて居る。この花園の様な中に立つてどんなに冷靜な觀察眼を働かせても、衣裳が欲しくないと云ひ得る女は發見し得ないだらう（三越吳服店樓上所見）

銘仙はおゝぬや
京城本町電話八九〇番

●談合事件判決
言渡期日變更

本月九日談合事件の判決言渡あるべき筈の處大邱覆審法院にては去る六日職權を以て判決言渡を本月十四日に變更せり（大邱特電）

●虛僞の申告

開城松都面大和町居住の陳淑子（二五）といふは同地東本町趙鏞弼が妾となすべき契約をしながら實行せざりしより淑子は之を憤り同人をして刑事處分を受けしめんと九月二十七日開城警察署に宛て趙鏞弼は七月二十三日開城郡嶺南面富坊洞の山中にて淑子を辱めたる旨虛構の申告を爲したる爲め此程京城地方法院にて懲役三箇月の處分となれり

●猖紅熱發生

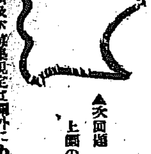
平壤府黄金町楠仁三郎男勝郎（八）は十一月三日發病醫師診斷の結果猖紅熱と確定し目下隔離治療中

讀者文藝（一等には五十錢の書籍切符を呈す）

▽筬め繪

○三茄子（一等）　京城明治町二　脇本つぎ子

▲佳作　京城寶川、水原歌野生、仁川平炯渉、京城笑郎、龍山仁木生、安東縣荒原生、京城平田生、太田奴太生



▲次回題　上圖の通り

◆課題及び募集規定は欄外にあり

■課題募集規程

■募集規程 ▲用紙は端書又は罫……の洋紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名……

▲賓海西部……▲氣温 急降すべし……七百六十二粍▲進行方向 東北東▲記事 北風强し……

天くも

▲十一月八日 少雨 一時晴……

〈演藝案內〉

黃金館　電話一八五二（階上）二六三七（階下）
大陸色活動寫眞株式會社滿鮮一手代理店　Mカシ商會朝鮮一手代理店
十一月七日より差替特別大寫眞 ▲實寫カタロニアの風景▲大滑稽ポール君の新兵敎訓▲琵琶劇孝女お信 筑前琵琶師見島旭洲彈奏▲米國ユニバーサル會社一大傑作振天動地の大活劇の幕は切つて落さる黑箱の眞價は本寫より發揮せらる世界的探偵奇譚第三黑箱 第一卷南海公和丸山市街第二三四卷薄田半晴氏講演第七篇不思議の家米國からクレーグへ英國ドルセツト領內に逃走した第八篇逃れられたクレーグは探偵の到着前に逃走した 嵐 ▲新派實錄 肥後の駒下駄 全四卷▲ニーバース應用連鎖劇月岡刑部宅の場

大正館　櫻井町　電話八七三
日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店
○十一月八日より提供の新寫眞と餘興 ○實寫オランダの風景○喜劇甘い茶○滑稽ポビー の藥劑師 △日活專屬尾上松之助一派出演 舊劇鬼夜叉丸 全三卷△佛國エクレール會社大傑作世界的大冒險大活劇天馬空 全三卷 惡漢フレッドは妻ヘレントと共に密かに大家の寶玉を奪ひて蹤跡を晦まし曲馬團に入る團長は ヘレンの美貌に迷ひ築き藥を放棄して頭みず內敎を覆ちとす偶々團長の妻ローマニー賽起一躍天空に馬を駈せて懸賞一曲を演じ成功して夫の苦境を救ふ 一 問一癸名探偵の活躍妻女の奇曲惡漢の末路痛快 亦限りなき佛國エクレール會社唯一の大傑作天馬の比に非ず▲大阪朝日新聞連載一大家庭小說 佐藤紅綠先生原作日活專屬俳優立花貞二郎一派出演新派家庭劇「母と子」（全五卷）少女梅子を心臟として五箇月間に亘り大阪朝日新聞に連載せられ山間僻地に至る迄愛讀者をして熱狂せしめたる「母と子」日活會社が此の撮影興行權利を專有し一度映寫上場するや小說及び演劇以上に情緒纏綿にして滿都の人氣を集中したるは此大のフヰルム宜しく深甚なる興味せられ▲餘興お名殘として少女浪花節日吉川うの子孃出演可致候

有樂館　本町一丁目　電話二六六
日本活動寫眞株式會社特約
△十一月二日より連鎖實演と新寫眞 △實寫ケナダの風景 △滑稽叶はぬ戀 △喜劇假裝會の優勝者 △米國ズメリカンキネマ會社作 ◎正劇「名醫」最長呎 △山崎長之輔出演 ◎新派大悲劇「合せ鏡」全三卷（大詰有地男爵邸玄關先の場）士總出の連鎖實演にて御高覽に供し候）恩人の愛娘に懸想して意を果し得ず其人を恨みて殺し止み難く佳人才子の成婚を妨げんとして懸は貞婦を苦しめしも遂に其の非を悟りて終りを潔くせし一編の一大悲劇なり大詰實演の場は當館獨特の電氣應用の大道具にて御高覽に供す△實演 男爵有地（秋岡慶城）大學生大澤敏夫（谷崎睦）門野貞一（尾崎榮山）うばおいく（片岡梅輔）夫妻妙子（若柳章）醫師吉岡保（立花英治）車夫萬吉（永峰王露）女中お袖（森木僚子）女中お松 谷川龍子 陸軍中尉有地武臣（巴實）米國マジェスティク會社大傑作◎活劇賞金全二卷 牧丁ボツブは惡漢逮捕の懸賞金を得て歸宅の途上護送中の惡漢デキサビルに遭遇せしも却て彼の爲めに恐喝されて所持の金員を强奪されしも再び他の牧夫等と是れが追跡を爲し遂に之れを仆すと云ふ大活劇なり

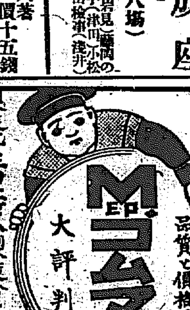
壽館　京城壽町　電話一〇五〇
當る十一月六日より 獨特の浪花節東洋軒雷右衞門一行 ▲安中草三郎（東洋軒雷右衞門）▲大和櫻之卷（東洋軒雷登）▲譽之魁（樋口義之助）▲左甚五郎（島山松雪）雪之曙▲百集美談三席▲合併節水府公（東洋軒雷右衞門）
△男に◎舊劇鬼薊梅吉 全三卷百三十場 尾上松之助出演の新撮影 幸に父の仇を報ぜしも遂に俠客の群に投じ萬て終に善くも仇を助けり或は一身を賭して其の牛生は實に波瀾重疊を極めたる全く泣くに泣かれぬ困み苦しみ遂に救ひを恩人の仇を少女の爲め無實の罪として辛くも終に自ら捕吏の手に其の意を達せしも天下の人大法に從し難く鬼薊梅吉の實錄なり◎番組多數に付廿ん

浪花館　明治町　電話二六〇
△當る九日より △生粹の江戸落語三遊社幹事 朝寢坊むらく改め橋本川柳一座來る △出演番組△落語（三遊亭歌遊）△笑話（本都遊）△音曲はなし（朝寢坊しらく）△大阪落語（三遊亭歌遊）△家元（明治唯一 曲藝）△少年はなし（夢の家三郎）△落語（夢の家市兵衞）△かけ合噺し（花の家梅八、梅八）△音曲はなし（張家醒之助）△滑稽（夢の家扇子、立花）

御成座　御成町　電話二九一
▲第十七回番組 善と惡 二人辯護士（全八場）
男 女
娘蕃子（花園）新吉（お梅）妹お梅（岩見）瀨岡妹一（小松平）魚屋新吉（川上）星照子（津田）小松貞一（小松平）飯田辯護士（明石）武田檢事（淺井）藤岡大尉（日野）吉野文夫（靜間）

山縣五十雄 村上唯吉 共著
▲富の道しるべ 價十五錢 郵稅二錢
京城太平通 振替三〇〇番 京城日報社代理部

壯健なる身体を得るには今直ぐ御使用あれ

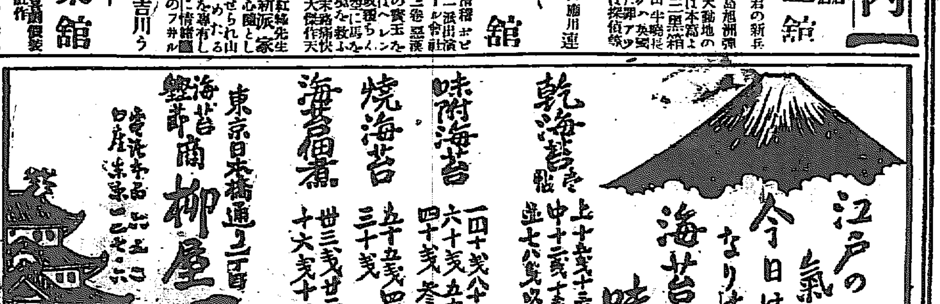


製造元 三田土ゴム製造合名會社
發賣元 大阪唐物町四 飯田商店

最新高等かぜねつ良剤
キナピリン

本舖 大阪市東區 高橋盛大堂藥房

寫眞
寫眞出張撮影
寫眞銅版、亞鉛凸版
最も熟練せる技術を以て最も迅速に最も低廉に
迅速と可取寄切を旨とし御高需に應ず
京城日報社 寫眞製版部



乾海苔 上 中 並
味附海苔 一円十戔 八十五戔 六十戔 五十戔 四十戔 参十戔
燒海苔 五十五戔 四十戔 三十戔
海苔佃煮 廿三戔 廿戔 十六戔 十二戔
東京日本橋通リ一丁目
海苔商 柳屋
電話本局 一二〇〇

……を進行中一名の婦人が踏切に飛込み轢死を遂げたり係官出張檢視せしに……新棒縞の給入黒朱子と毛繻の帯……判明せざるが現場の模樣より見れば多分覺悟の自殺ならん因に死體は……時內南面邑內里面長へ引渡し假埋葬

◆これから起り易い僂痲質斯 簡單に行はれる療法

今頃から持病に惱む人の多い僂痲質斯病は急性と慢性との二樣があつて急性は朝起きた時に手足が痛かつたり又は寢違へた樣な

▽疼痛を 感じて暫くすると忘れた樣に痛みが止る樣な病狀で始めは左程烈しく痛みません慢性の方は脊中が半分痛んだり兩腕が痛んだり時々場所を代へて痛むもので關節の痛むものは隨分烈しい疼痛を覺ゆるものでありますそれで僂痲質斯の

▽療法は 廣く行はれて居るものに温熱、按摩、藥物、電氣、ラジウム、氣候などに因る療法がありますこれからはそれ〲患者の望む療法に任した方が良いのですが簡單に行はれる療法を申しますと温熱療法の一つとして炭酸浴が効があります之れは普通の家庭の風呂でも出來る方法で即ち二百瓦計りの重曹を

▽湯の中 に入れて攪拌し病人が湯の中に這入つて居ると間三百瓦程の粗製の鹽酸を少しづゝ加へますと炭酸と遊離してそれが作用します其外温泉に入浴した場合患部に温かい湯を何回も掛けて温めたり又は温かい砂の中に身體を埋めて身體を温める事もよいと思ひます又廣く行はれて居る按摩療法も効能があります若し轉地して

▽氣長く 保養する場合には空氣の淸い場所で餘り風の吹き通さない處が宜しい樣です殊にこれからは寒さに向ひますから肌著には地の柔かなイタリヤネルやフランネルなどを用ひ腰部を冷さぬ樣に綿の這入つたものを選び

▽婦人や 老人などは股引などを穿いた方が宜敷い又食物で注意すべきは刺戟性の物を多く食べぬ樣に注意するが肝要であります(某醫師の談)

少年の出世

□其五 眞の成功

泣かざるを得ない、道理である。何處に自分の子を神として祭る親が有らふ『嗚呼勿體なう御座います』米藏は腸を掻き挘られる樣な思に泣きに泣いたのである。米藏は此の時初めて悟つた。『人生百行、莫大於孝』など訓へてあるから孝行は普通大抵な事では出來ないと思つて居たが、今日初めて之れ程容易いものはない事を知つた。

□孝行とは 親を喜ばせる事であつたのだ。そして親は子が仕向けてくれる事に喜んでやらふ〱と待ち構へて居るものであつたのだ。恁んな事なら誰れにでも出來る事である。して見ると自分は普通の事をしたのに過ぎない。ヨシこれから自分は、子が親に仕へた樣に、他人に仕へ行を他人が喜んでくれる樣にしやう、之れが眞の成功である。萬の富を積むとも高位高官になつたとて成功とは言へない。事は易いが此の成功は仲々無部加減い。他人の間には猜忌があり不儀が起る、親が此の子の行を喜んでやらうと待ち構へて居るのさへ正義である、が惡魔でない以上、赤心を以て臨むならば、何時かは

□自分の誠 も通ずるであらふ 然うだ、然うだ。斯う悟つた米藏は、直ぐに會社に辭表を提出した。そして社長と、其の品子とが只管引き留めたのも諾かずに退社した。米藏は父の手紙に依つて自分の責任負擔の無くなつたのを知ると共に更に何物か新たな負擔を得て努力しやうと決心した。此の新らしい負擔を求めながら社務に從ふ事は二心を懷いて社の俸給を食む事になる。社には不忠實である良心からは

□苛責を受 ける。米藏がエームス社長の懇命を固辭して退社した理由は玆にあつたのだ。退社した米藏は、新たな負擔を日本の國債償却に求めた。日露戰役二十數億に上つた國債は、年々の利子丈で數千萬圓の正貨が海外に流出する。之れ實に國家の一大事である。ヨシ自分は獻身的に此の國債償却に努力しやう。人生五十、自分は未だ二十八歳の血氣盛の青年である。渾身の赤誠を之に注いだら出來ない事はよもあるまいと。決心の臍を固めた米藏は、紐育株式仲買人の定款人員に缺員のあつたのを幸に

□百萬弗の 入會金を投じて株式賣買不動産の仲買人となつて、米國經濟界の情勢を黑幕の裡から觀察する傍、近世經濟學のあらゆる書物を讀破し、名家の意見をも糺して、終に富を作る最も確實有利な方法は恰も青年時代の如き將來のある紐育市郊外の土地を購入して地價の騰貴するのを待つに如くはない事を知つた。そして其の先決問題である外人土地所有法案を、紐育州議會に提出せしめて、百方苦心の結果終に之を通過せしめ、大正二年四月一日此の改正法の實施を待つて年

□三十の時 米貨一百萬弗の資本を以て、紐育土地建物株式會社を創立して、社長の椅子に就いた。爾來社運は益々發展し、事業は年と共に好成績を擧げつゝあるのである。以上は『紐育市內外の地所及び『牛の』著者として知られて居る岡本米藏君の立志傳である。氏は常に人に聊へて謂ふ『成功は獨り孝子の門にのみ出づ』と氏の性行と相俟つて常に座右の銘とすべきではないか。

●遠地々震の觀測 仁川觀測所地動計に感動

仁川觀測所の地動計及び微動計は去る一日遠地に起れる大地震の波動を感じたるが其震動は同日午前零時三十六分二十秒に始まり明瞭なる初期微動七分五十四秒の後主要動に移り震動漸次著しく零時四十六分二十四秒に至りて震動最大となり全震幅二、九粍に達せり後震動次第に衰へたるも尚數回に亙りて稍々顯著なる震動を現はし以後終期微動に入り漸次微弱となり午前二時二十分頃遂に消滅せり而して本地震の震源地は震動の狀態に據り推算するに仁川を距る東南方約三千八百粁の遠地にして南洋カロリン群島附近なるべし

●仁川學校修學旅行

仁川公立尋常高等小學校にては來る十日尋常五年生百九十二名は京城へ同六年生百三十五名は京城龍山へ高等一二年女生徒五十七名は水原へ、同男百十九名は開城へ修學旅行する由高等女學校にても十一日開城方面に修學旅行をなすべしと

●開城 大神宮上棟式 開城にて

は本年大神宮を奉安することゝなり來る六日社殿の上棟を行ひ遲くとも今月末日迄には祭典を擧行する筈に

て目下それ〲準備中なり之が爲め市中活氣立ち去る五日より二日間開城座に於て料亭夜明樓藝妓溫習會を催すなど近來になき好人氣なり(開城)

●公州普通學校運動會

全南公州公立普通學校にては三日の立太式祝日をトし常盤町陸軍練兵場に於て秋季運動會を開催せるが卒業生並に內鮮各學校の參加運動等ありて非常の盛會を極めたり(公州)

●平壤記念切手

平壤郵便局に於ける立太子記念切手三日四日兩日賣上高は一錢五厘一萬三千百五十七枚三錢八千二百五十六枚十錢二百枚なりと

冬のお仕度

寒い風がそろ〱衿先を吹く樣になつて來ましたので防寒のお支度に心を配る方もありませう ■今年は暖かい毛織物のネルやメリヤスが幾らか騰貴して居りますが、紳士用の御寢卷には稀降りのメリヤス製が僅に一圓八十錢位で求められますから布地などを買つて縫ふより經濟です ■又普通の肌著などにもイタリアネルの地質の柔かなものもあります。それから洋服の下著には毛絲で編んだ折襟のオーバーセーターや毛絲で編んだ上著などもあり ■婦人方の防寒の襦袢類にも肌觸りのよいフラネルや眞綿を包んで縫合せた肌著などがありますが色は肉色やクリームなどが喜ばれて居ります

神社とお寺と教會

○東本願寺(南山町)八日午後七時より信女會 步船妙の講義あり
○京城基督教青年會 八日午後八時より中央青年會に於て體育會を開催

二等(二十名) 伊達顯三郎、藤井治三郎、大屋捷次郎、栗山龍吉、菊山正、李鳳來、吉井厚、平野房太郎、庭谷つね子、同すみ子、南摂松、大山林一、[illegible]宮一、越智昇三郎、櫻井てる

三等(七十二名) 村上武夫……

商況

東京株式特電

(前場寄付) [illegible]

債券現物特電(前日との比較)

[illegible]

公債直取引(前日との比較)

東京	一〇〇、一〇
	一〇〇、〇〇

深川在米特電

(七日出來値段)(前日との比較) [illegible]

東京期米特電

七日前場	一月限
	六六、六八
	六六、三三

大阪株式特電

[illegible]

大阪三品特電

七日前場		
十一月限	九〇、五〇	九一、〇〇
十二月限	九〇、九〇	九一、二〇
一月限	九一、九〇	九二、四〇
二月限	九二、四〇	九三、九二
三月限	九二、〇〇	九三、〇〇
四月限	八二、八〇	九三、五〇

大阪期米特電

七日前場	
限寄付	一六、二〇
中限寄付	一六、四〇
先限寄付	一六、九一
止め	

下關期米特電

七日前場	當限	中限	先限
寄付	[illegible]	[illegible]	[illegible]
高値	[illegible]	[illegible]	[illegible]
安値	[illegible]	[illegible]	[illegible]
止め	[illegible]	[illegible]	[illegible]

雜報

●澱粉賣物皆無 暴騰の一擧四五圓

澱粉は新物出廻り以來暴騰を重ねつゝありしが其後米國及和蘭よりは非常な高値を以つて買進み來れりこの事にて最近に至り更に暴騰相場を演出し目下大阪に於て十四五圓といふ珍高値を見るに至れり此見當より高値の市場は十五六圓が相場となり且つ前週に入り漸騰の結果遂に十一圓處の取引に過ぎざりし物が今一擧に四五圓の暴騰になり見事と手持筋は此際とて安値には手放し難く結局持品を隱し暫時形勢を傍觀せんとするにあるが如し爲めに本品市場の現狀は全く賣止め同樣なりと

●石油は好況

內外四社の販賣協定の地固めとして五錢値上げ後の燈油市場は思惑買のなき當然の結果として手持品の消化せらるゝと共に商談漸く活潑に向へられ引續き荷動き活潑なれども第二の値上げまでには幾何もなく需要は益々旺盛となり現狀としては唯だ出荷の好況を唱ふるのみ而して輸出の引渡品に追はれ居る輕油は內地池湯用としては多きを嘆ぜられ難しとす

●麥粉は昂騰 麥粉は更に

粉は其後更に二十錢方の入荷を續け漸く需給の均衡を得て一層強硬の市況を呈するに至れり相場は此處暫く普通取引にては緩ダイヤ二圓九十錢種類の二圓六十五錢處にて此兩三日間に十錢乃至二十錢方の昂騰を示したり

段の高値 眼先更に一

は製産地相場と採算上に何れも期待され高値の氣配なり

●罐詰筍強硬

罐詰筍は大阪の罪に強調といふに過ぎざりしに小罐罐は嬰きに輸出口の大商談ありて以來在荷拂底の罪に益々高調を得へられ今や當地の七圓を唱ふるに至れり今後小罐にして更に價格の騰貴を見る事あらば物ひた陸な小罐に需要せらるゝに至るべきより前途大罐物の暴騰を見るなの時期しとせり

●白米移出好調 十五圓七十錢處

移出商談は內地正米高と俟つて益々好調なり其後大阪口は神港に五十錢迄取組まれたるも今や更に十五圓六十錢處にて新期商談を進めつゝあり

●精白値上げ

精白値上げ 料米高により七日四十錢の値上げを行ひ組合標準値は十四圓七十錢となせり

仁川米豆取引所仲買人 海岸町三丁目 三巴仲買店 電話(三三)二 振替口座京城四〇一二

●生果類不味

日平均二三百梱の入荷あるに賣行きは餘り捗々しからざる爲め昨今稍相場の振合ひあり遅れて相場も安値となるが如し林檎は上物二圓內外國光五六十錢處なり梨は內地產鮮產取合せ約七百梱許りの着荷あり爲め氣配軟弱なり出來値は廣島物貫五百目入一圓二三十錢備前物四十錢より一圓六七十錢林檎は上物一圓四五十錢處なり

下關相場

○大小豆は依然好調 大豆は其後部物五十叺の廻着に過ぎずして貨物至極僅少なる折柄產地の如き然高報を傳へ益々不引合を訴へて筋の買り腰強きに依り相變らず高く尚ほ小豆も前報の如き事情に益々人氣好況を極め之れが出來値は古五等品十六圓三十錢新物五等品の如きは百斤入圓よりの小口八圓一二十錢處に出來せ○肥料は依然手堅し 魚肥は前朝鮮干が吉九本同鰯干か二百七十本圓鰯百二十本賭等の輸入品は十本餘に過ぎざるのみならず昨紙既記の如き事情の下に前途如何なる相場を見るも計り難き成行きにある折柄然手持筋の氣强り居る爲め相場も人氣強く併餘りの高値に買人鮮味の體ゆへ前報後別に見る商內行はれざりし尚ほ豆粕の既如き事情の下に相變らず市況なり

京城正米

正米は一前新米の十一圓五十錢迄低落せしも其後漸次引戻し歩調一變し本日は前日より更に十錢高一圓九十錢見當を唱へらるゝに前記安値より約四五十錢の昂騰し居れり而して今日迄の新米出廻りは決して前年に劣らず寧ろ多き方ならんが何分古米缺乏の折柄けられ丈出廻り不足を感ぜられつゝあるに昨今內地相場の漸騰を告げ運れて白米移出の好況を告げ自然米口の原料買進みとなり漸次騰勢を移りし大勢なるが南鮮方面京釜線方は更に一段の强硬にて目下正米とすれば神力にて著値十二圓二十錢以下にては出來難き模樣なり從って又此調子を以つて推せば更に一段の高値に逃まんやも知れず

南大門の廻穀

梧柳洞籾	六四叺	平壤小豆 一二叺
宣川胡麻	三九叺	一山白米 六二叺
平壤白米	三四叺	一山籾 一三二叺

仁川現物市場

平壤小豆 一八叺 黍砂粒 一二四叺 平壤蓄麥 一二叺 宣川胡麻 三六叺 水原白米 二一叺

△米穀入津は雨天にてなし
△大豆入津同斷
△正米入津同斷

釜山米市場 (六日)

▲正米(三十錢高) 鮮米品は別段なく賣り物潤澤ならず米主側は何等に應ぜず賣値の堅き氣構へたるや容易に商談纏らず出口の買人は依然至品の鮮良都を買ひ進み合を唱へながら余儀なく呼び値に應ずる模樣なれば後一二錢小高の景氣を示すに至る
▲大豆(二十錢安)に至る人は依然良都を資好不引合を唱へながらも漸く十錢高の人氣を示し在米も弟庭の形勢にて本日前場は大阪期米の好勢に依り一寸頭因へ商況にて不況を呈し買人逃く二十錢安の氣配なり
二十錢安の氣配なり 米三千三百三十六個 內中米四十八個 玄米三千三百十六個 賣高二百五十四個

生魚市場

入荷少なく氣配は良好なり日九市場平均出來値左の如し
タイ二〇、キダラ一六、ヒラス一三、ヒラメ六、ハモ七、アナゴ八、アジ八、クルマエビ五、ベニ一、カツオ一、二タコ八、アイカ六、コノシロ 八、サワラ九、サゴシ三

仁川期米

▲七日前場

(兵庫前場寄十六圓六十八…)

大阪 天候晴 天前寄十六圓九十一錢 昨止より一錢安の入電二節八十九錢と小甘く移り

にて當地寄三十錢と押し二十錢と返し二十四錢と押し二十錢と返して引けたる處十二圓四十錢より二十錢と押し二十錢と返し同先十二圓十錢の二錢、六十錢と同事に寄付たるも賣物多く五十九錢と返したるが引續き又賣物多く六十二錢と折れ

大阪五節八十三錢と安移

したるも買物絶へず一錢と保合の裡に下げ澁りの成行を示して散會

市場雜聞

▲前場保合 天候雨天昨後場の引乘を受け今朝の成行如何

▲七日前場 當限(十二圓六十二錢)出來高六百石
▲值段 四十二錢 (申)三十錢 四十五錢 平均値段 四十六錢平均
▲中限 十二圓 出來高 一萬二千四百五
▲先限 (十二圓五十三錢)五十九錢 六十錢 一錢 六十一錢 一錢 六十一錢 平均 二錢 一錢 二錢

寄付値段は前日の止高より大阪節を受け當地寄りしが其後二三錢高く寄付たるも宣聯に五十九錢と安移りたる後大阪の氣配なき二錢安の入電に又もや押戻されたり此邊の賣物あるも押目は又買物くゞる事なく保合人氣を交へたるも四十錢六十一錢と先手を鳴たり押は又々續る前場の押目を拾ひたる反動なり

▲前場の手振

前場の手振 重なる商內は先各二千餘石⑳六千餘石⑤各三千餘石⑦各二千餘石④三千餘石⑥一萬餘石の買方に對し賣方は⑳各二千餘石⑩四千餘石⑮各三千餘石等にて其他は小口商內であった

存外下げ澁り

存外下げ澁り 今後の成行や如何

▲㊇能く賣る 今前場同店は五千餘石に上りたり
▲⑧能く賣る 前場同店よりの賣りたる玉數九千餘石に上りたり此の外賣りたる玉數九千餘石の買ありたるも市場は大に市場の注目を惹いたり
▲㊐能く賣る 前場同店より賣りたる玉數三千餘石に上りたりとの事にて注目を惹いたり
▲全能く賣る 前場同店より

▲㊦大に買ふ 前場同店よりの買ひたる玉數三千餘石に上りたりとの事にて注目を惹いたり 賣りたる玉數一萬餘石の買ありたるも大に市場の注目を惹いたり
▲㋷能く買ふ 前場同店よりの買ひたる玉數三千餘石に上りたりとの事にて注目を惹いたり
▲㊂の商內 前場同店より賣りたる玉數四千餘石に上りたる
▲此邊一服乎 大阪の急激なる立直りに遂に十七圓の大台に乘せたる當地の人氣は依然賣り人氣なる處より此邊一寸一服すべく尚持合はせざるとも尚時々…相場あるならんとの說あり外に大阪は一般思惑も資行大阪十錢押しを漲らさんに一寸一服したるものなりと
▲切の棒立相場に八九十錢 ならざるも止めて相場の押しは相當なる殊に大阪天井などと見て居るとなりし

又好個の押目 日先天井

當切の棒立相場は八九十錢の押しは相當なるべし然れ共當地の押目は結局の成り行きであるが一相場として戾る高さは此邊が常識である、當りひ居る當時は一相場の成行を探すは天井にて…

▲新米入不足原因

新米入不足原因 近來新米の出廻りに就き郡の報告によれば季節柄の新米は其出廻り甚しく東北陸及九州等の一地方の新米は近頃著しく減少せる爲め當地の新米入荷は其割合に少なく從つて新米出來高の減少を見たるも季節柄の資料を求むる向多く需給釣合せず一方古米の市價は頗る强硬なるべく加ふるに新米の……本年は新米の不足と共に翹著高を示し古米の出廻り減少を來し新米の増加を見るに至りしは例年の出廻りに比し三十錢位にて割安なる爲め一層其の需要增加を見るに至れりと

仁川米豆取引所 七日の一月限

前場	寄付	十二圓六十錢
	止め	十二圓二十錢
	高値	十二圓六十錢
	安値	十二圓十九錢
	出來高	一萬三千五百石
平均値段	一節	十二圓六十錢
	二節	十二圓六十一錢
	三節	十二圓六十錢
	四節	十二圓六十錢
	五節	十二圓六十一錢
	賣買取組高	十二圓六十錢

	前場	前日と比較
十一月限	一二、六五	三高
十二月限	一二、六五	一高
一月限	一二、六二	五高
六日後場	一二、六七	
	一二、二二	三高

小賣白米

現金賣 一等白米 十四圓七十五錢
次 白米 十四圓

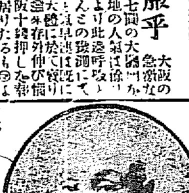
白米標準値

十四圓七十錢

隱し化粧

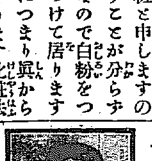
家庭に於けるお化粧の要 自然の肌膚の美しさに見ゆ

市川八百藏談



(ミツワ文庫五ー〇一)

化粧はよそ行の際ばかりとは限りませんもので家庭に居りましてもあまりだらしなくして居りましては來客のありました時などに主人の顔にもかゝはりますものですからきりゝとした身じまひをして居りますのはよい心がけと存じますと申しまして平常着の化粧といたしましては隱し化粧でございませう隱し化粧と申しますのは化粧をして居りますことが分らずに綺麗に見ねます法なので白粉をつけて居りますが此のつけて居ります化粧法のことを知らせない樣につくります化粧法で色白で美しい樣につけて居りますのでございます此法は洋風にいたしますと濃い化粧水を生地へ塗つて置きましてその上からかくし化粧用のはき白粉を極薄く刷きつけて此を別の眉刷毛で思ひきり充分に拂ひ落しますので、しますと浮いた粉が落ちまして肌膚へ白い物が殘らずに美しくなります和風にいたしますには矢張化粧水を塗つて置きましてその乾きましたら上を打ち白粉で輕く叩きましてそれをすつかり拭き落しますと美しい日本髪の向の隱し化粧になります此はどちらもお若い方の隱し化粧で年增のお方の隱し化粧は顔を洗ひました後へ隱し化粧用の打白粉で一通り輕く打ちつけて輕く拭き取るだけで眞から色白の美しい肌膚に見ねます三つの內どれにいたしましても只一わたり輕くつけますだけのことですから土臺になります地肌膚が整つて居りませんと白粉がすうつとうまくのつて眞からの美しさに見ねると云ふ譯には參りませんから每日の入浴每朝の洗顔にも肌膚の營養を助けるミツワ石鹼を用て肌膚を整へることを怠らない樣にしなければなりません專門家に伺ひますとミツワ石鹼は不純な混合物のない遊離のアルカリも遊離の脂肪もない化學上の純石鹼であります上に原料にいゝ脂肪を使つてあり日本人の皮膚の生理狀態に適します樣に特に研究して精製されました理想の石鹼でございまして使ひ心地の宜しいことは勿論皺膚を整へますには此上のないものでございますから入浴の際にお湯から出まして濡れて胖になりました皮膚へ此のミツワ石鹼を掌で溶きました雪の樣に白い泡沫を塗りまして靜かに撫でますと石鹼の作用で汚垢は此の泡沫に吸はれる樣になつて混りますからお湯で洗ひ流しますと皮膚は生々として潔淨になります此際よく絲瓜や垢擦を使ひまして此でなくては汚垢は落ちない樣に早合點をなさる方がおありですが此際白くよれて出ますものは汚垢ではなくて皮膚の表が擦り剝かれるのですからお湯をかけますとぴりぴりとしますのでも分りますミツワ石鹼を用ゐますれば斯樣なものを用ゐて皮膚を荒らす樣なことはなく汚垢は落ち皮膚の機能は健やかになつて白粉ののりものびよくなります。



▲坂東秀調曰く 少し續けて考へごとをしたり、讀物などしたりして、居りますと、頭がくしやくしやしたり、頭がのぼせたり、頭の地が痒くなつたりしますが、此際ミツワ月の雫(ヘーヤロオシヨン)を頭へふりかけまして刷毛でこすりますと、此が毛の根に浸みて行つて頭の地へ沁みて行つて、頭が涼しく、なりすがすがしく輕くなつて實に氣も心も爽快になるのでございます

てんかん 病一時で ころる薬 ヒキツケ困る方切手三錢送れ永年の病も自宅でなおす最善の良藥を教ゆ 名古屋市中區南小川町 救生社
身體やせて種々な療養効なくお困りの方郵券三錢封入申込めば胃腸を健全にし害なく身體肥満さす妙藥の說明書呈 ◎東京市麻布區三河臺町小川藥室

わきが 清腋散 良藥 ■わきが治療良法 ■本劑は幾多の經驗せし實驗ある故慢性わきがも治癒せしむ直試あれ (價一圓二十錢 二圓二十錢 三圓五十錢) 本舖 名古屋市東區小林大藥房 大阪平野町小林大藥房 東京龍小林大藥房 日本橋…全國藥店

國民胃藥 太田胃散 ○飲過ぎ食過ぎに妙なり 東京神田錦町 太田信義商店 本舖 全國到る處の藥店にあり

期米 大阪堂島米穀取引所仲買人 曾我商店 電話 長(大)…

質 京城南大門通一丁目 永樂町(停留所北入) 堀佐營業所 (電話…)

フランスネルのシヤツ 毛が綿か? 毛さ少しも變らぬ 理想的織物 キツト あなたの御氣に召ます 登錄商標 東京 潮谷商會

產婦人科 中央婦人病院 本院 京城旭町一丁目 電話二三四〇番 診察午前 分院 龍山漢江通(柳町) 電話一〇六番 診察午後 院主 衣笠

記に限る)
一週間以內に剩窃發見通告者には五十錢書籍券を呈す(但何書何號と明

宮本武藏

第二百九回

桃川如燕口演　浪上義三郎速記

海老屋嘉十郎方へ近所の者が五六十人其夜集りまして講釋を聽く事になり嘉十郎は高座を拵へ其の前の處へ茶を入れる趣向をいたし　嘉『さア皆さん此方へ、江戸の先生で一貫齋曉雲と被仰る方、田舍廻りの講釋師とは違ひます、何でも演じますからお望みなすつて』〇『有難ふございます何でも宜うございますから先生の得手た物を聽ひませう』嘉『それでは先生一つ聽ひます』曉『承知いたしましたでは二天一ッ演ておくれ　二『畏りました』と二天は高座へ上つて長篠軍記の鳥居强右衛門の水潜りの處を演じました、宮本と云ふ人は一體器用の人で生れが江戸で吉原通ひまでしたと云ふ通人であるから、唄も唄へば踊も踊る、講釋位は何の苦もございません、殊に辯說も宜し大層氣に叶つた樣子、代つて一貫齋曉雲が　曉『只今は弟子の二天が一席辯じましたが御意に叶つて有難い、手前は三國誌の內關羽五關破りを辯じませう』と三國誌を述べたが此の人素より博學多識、三國誌なぞは腹の中で下積みになつて居る位、是亦大受けでございます　〇『イヤ今晩は有難ふございました、先生手前は此の向ふの穀屋でございますが、明晩は手前方へお出を願ひたいもので　曉『有難ふございます、それでは明晩は必ず參ります』と翌晩は其の穀屋にて座敷をいたし次の晩は此の先の呉服屋といふ譯、毎晩〳〵座敷が續ひて十日ばかりといふもの座敷を終つては海老屋方へ歸つて來て遊んで居る　曉『何うじや二天、世の中を悟つて歩くと面白い譯のものじやな、俺やお前が奥州仙臺へ參つて講釋師にならうとは思はなかつた』二『是が一ツの遊びでございませう』と世間は酒を飲んだり其處此處を見物したりして夜になると二人は懷中へ本を入れて出懸けて行く、イヤ暢氣なものでございます、處が露見をしたと云ふは何いふ譯だと云ふに、岩沼の館主茂庭周防より仙臺本城へ注進があつた其の次第は此度江戸表より水野日向守勝成宮本武藏正名の兩名儒者講工と稱して當岩沼へ參り、是より仙臺の城下猶奥州路を遊歷いたすといふこと、其の實は大公儀の內命を受け諸侯の動靜を探る爲とある、依て右兩名を見當り候はゞ不禮是れなき樣御手當あつて然るべしとのことである、是を聽いて仙臺家の重役此の事を殿へ申し上げると。太守忠宗是を聽いて　忠『然らば右の兩人は予の城下に參つて居るであらうから篤と取調べ予の目通りを取計ふ樣』と云ふ仰であるから城內係りの役人は早速旅籠屋を取調べると、本町海老屋嘉十郎方に居たのが水野宮本と判つたから海老屋嘉十郎方へ出張いたし、役『是れ嘉十郎は居るか』嘉『ヘエ嘉十郎は手前で何御用でございますか』役『此方に江戸表から參つた儒者と講工の兩人が滯在いたして居ると云ふが左樣か』嘉『ヘエー、江戸の講釋師で曉雲に二天と云ふのが泊つて居りますが　役『其のお方の御年齡は』嘉『左樣でございます曉雲と云ふは八十歲位、二天といふ人は四十五六でございませう』侍『それだ、曉雲といふお方は水野日向守と云つて六萬石の諸侯だ、又二天といふは細川の宮本武藏といふ劍術の先生だ』嘉『ヘエー、お大名と劍術の先生でございますか』侍『其のお方の處へ案內をいたせ』嘉『是は驚いた』と兩人の居室へ役人を伴れて參りますと　嘉『エー先生方、御城內からお役人樣方がお出でございます』曉『何に城內から座敷でも然う云つて來たのか』嘉『然うではございません』處へ入つて來た役人、兩手を突て　役『是は城內の者にて森嶽右衞門と申する輕輩にございます、君命によつて御迎ひとして罷出ました、是より城內へ御賁來を願ひます　曉『俺共の居ることが知れたか　森『岩沼より注進がございましたか　曉『あゝ岩沼より注進いたしたか二天又露見をしたよ、態う行く先々で露見をしては面白くないな、然し知れて見れば此處にも居られんから城內へ參らう

外科一般　皮膚科　泌尿器科　花柳病科
院長　安部修三
京城永樂町二丁目金光敎會隣
安部醫院　電話四一九番

▲產婆　小林カツ
大和町一丁目四十五
電話一一五五番

石鹼化粧品　婦人小間物　卸商
月本政次郎商店
京城明治町二丁目
電話二二二八番

曆

十一月九日九星
舊十月十四日亥戌
本命　五黃　八方閉　大安

▲五黃● 積善主義の事有る日新事見合　南方は吉　陰劍なし▲六白● 活躍の日轉居入學　金件名弘求職　探　鐵嫁聟入物　肥料商等萬吉▲七赤● 趣融の日轉居開業入學名弘家作求職婚禮金融業等萬吉▲八白● 氣に喰はぬ事有る日新事手控　萬事は吉萬叮嚀にせらるべし▲九紫● 繁榮の日　轉居入學金談名弘求職棟上婚禮先を見越たる商事等萬吉▲一白● 譯のわからぬ事有る日新事手控　萬事は吉女難失物用心の事▲二黑● 不善不惡の日なれども新事控目の方吉　萬事土工は妨なし▲三碧● 厄介至極の事有る日新事手控萬事は吉　買物に用心せらるべし▲四綠● 約子定規の事　有る日新事手控萬事開黃は妨なし

驚く可き新事實

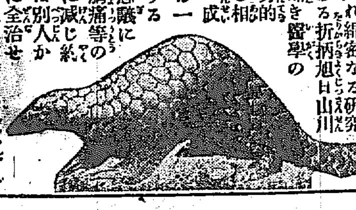
浩林生

▲生死を賭して　身代りとなる

肺病患者の

▲全治實驗秘密眞相の公開▼
▲肋膜氣管支患者も助かる▼

社會の出來事としては熱き血と冷き淚の痕を示し肺病全治の事實として安原氏の經驗は肺病救濟の破天荒の福音なるのみならず感慨無限の實話として一般讀者に報道せんとす。現に今日も吾人が厚き交誼ある安原氏は國稅納額數千圓に上り體重十八貫もあり愉快活潑に奮鬪されつゝある紳士なるが安んぞ知らん氏は數年前恐る可き肺癆に呻吟し瀕死の狀態をさへ傳へられし事もあり氏は假令家產を蕩盡しても身命には代へられじとあらゆる藥治に手を盡し又は根國原鎌倉の如き山青く波白き地に靜養せられしも氣力は次第に衰弱し身體は削らるゝが如く代る〳〵の病に攻められ咯血さへ見るに至り親しき知人は淚ながらに同情し縞蛇黑猫の黑燒まむし酒スッポンの生血加持祈禱は愚か云ふに忍びざる療法までも勸むる人ありき。然れども氏の生家は醫家で合弟等二人の名醫を出せし程なりしかば流石に舊時代の迷信などには耳を傾けず何れ危ふき一命なりとせば進步せる學理を指針として研究し有効也と信ずる以上は前人の未だ試驗せざると思ひし奇拔の療法にても生死を賭して自己の肉體に實驗し一面より之れを見れば一身を以て幾十萬同病者の爲めに身代りとなれる觀あり又奇獸穿山甲が肺病に特効あるを聞きて之を手に入れ綿密なる研究を重ねつゝある折柄旭日山川を照らすが如き醫學の光明と獻身的熱心の結果とは相須つて偶然完成せる確信ある一奇藥を服用するに及んで不思議にも咳嗽咯血胸痛等の病苦を日毎に減じ約三ケ月後には別人かと驚ろく樣に全治せり　されば此事實を聞ける同病者は氏の療法を聽き實驗するに奇効を奏するより再び訪問し又は書狀にて心限りの感謝を表するもの日を逐ふて多く今日迄救濟の患者は既に數千人に達し居れりと云ふ　幸に氏は一人にても多く患者を救はんとの考へより秘密眞相を公開せる肺病全治事實を論述し同病者を救ひ居らるゝが其驗療法の內容は意外の興味と的切なる實効を有し肺病治療上の新權威なるが氏は此大書冊を同病者に無代頒本しつゝあれば肺病、肋膜、氣管支患者は取敢ず東京日本橋吳服町二安原尙親氏へ宛て『京城日報紹介』と記しハガキで申込み一讀して全快の新道程に急進せられよ。



學者の創製したる

美顔ユーマー

愛用者の寄書

(其二)　神戸　松下せつ子

仲のよいおや樣に頂いて使つたのがユーマーの使ひはじめでございました。使つて見ればうつすりと白くなり、いき〴〵としてほんとうに愉快でたまりませんので、それからはかゝさずにずつと使つて居ります。又お風呂からあがつた時は、ユーマーで美顔おしろいをといて使ひますが、まことに氣もちよくつきますので、化粧下手な私は大助りでございます。

國の譽

2575.157.11.

大阪　桃谷順天館　東京

世界の大富源　南米へ行け

赤手空拳にして巨萬の富を得らるゝは南米に限る今の內に寶の山に行け又移民も日本より北米行は制限あれど南米から北米行は自由なり南米の渡航方法及び金儲けに有付く方法を知りたき方は東京東橋染地一ノ六南米進社へ二錢切手封入照會あれ

肋膜炎に病む方に

●水がたまつて苦む人
●ロクマクエンにて永らく病む人は淡色の液がたまり、液の中に血が交り膿汁がたまり、呼吸をすると胸が痛む、咳嗽が出る、動くと呼吸が困難になると云ふ病氣である此の病氣は難治な病氣であるから早く速に治して丈夫にならねばこの世の人々の最も恐れて居ります肺病に成り易いのですまだ此の病氣に良く効く良藥がありません東京府大森新井宿中江榮療院ハガキにて御照會あれば是迄實地の服藥の上最もヨクキク靈藥の自宅治療問答書を同病に惱む方に無代で差上ます

月やく

なきに御困りの方は郵券三錢封入左に御照會あれ　藥妙知らす
京城黃金町三丁目　山田志づゑ

ルーデサック

男用一打四拾錢上製六拾錢　婦女用一個七拾錢
月經帶一個八拾錢壹圓各種(送料要)
▲花柳病自宅療法　申込次第進呈
京城永樂町二丁目交番北
東京ドラッグ商會滿鮮本部

髮の手入

髮の良き人には愈良く惡き人は一度で忽ち漆の黑さとする
植物性美毛劑加味
ホーカー美髮液

▲國產純良の椿油を以て精製したる佳品にして、毛髮の色艶を美しくし、クセ毛を直し、頭垢を去り香ひ良にして從來一品もなき優良美毛香油
定價　德用瓶卅五錢　小瓶廿錢
ホーカー液本舖　東京和泉橋　堀越嘉太郎商店　振替東京一二五六

茂木式特許器械製

ほまれ味噌

製造元　日本醬油株式會社京城出張所
電話　番

病身は一生の損!!早く

滋養大關　次亞燐　召せ!!

次亞燐は鐵と燐酸と高貴營養藥の配合にて病身を强壯體となす

(定價)　大瓶　二圓也　中瓶　一圓卅錢　小瓶　八十錢　試用　五十錢

本舖　大阪道修町　藥劑師　小西久兵衛

賣捌所　各藥店

京城日報 第三版
八日朝刊 (夕刊と合せて八頁)
本紙定價 一部金三錢五厘 一ヶ月金六拾五錢(前金)
廣告料 [illegible]
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
發行兼編輯人 奧田直毅 印刷人 小川三之介

支那の財政 京城日報

近頃支那の政局、甚だ錯綜を極むるがごときもなれども、大體より之を見れば、各黨各派、稍其爭鬪に倦み、安協互讓、以て一致を過越せむとの觀あり。之れ其の爭の、不利なるを知るのみならず、實は相爭ふの力なきに、由らざる可からず。南北安協が、歪み形にも其型を保ち久しき以前より、問題たる副總統選擧が、案外に無事に行はれたるが如き、皆其例證なり。

是今日支那政治家にして、其局に當るもの、皆日支親善を以て、其標榜と爲さゞるものなし、嘗て日本排斥を專らとしたるものすら、今や却て、我に親しむべきことを主張するを見ても、其の大勢の、推移する所を知るを得べし。畢竟支那自ら、新たに其政體を定むるに當りて、其力を友邦に假るべきもの、甚だ多きのみならず、其財政の基礎を立つる、先づ外債に依りて、歳出入の均衡を正くするより、始めざるべからずして今日歐羅巴諸國は、戰爭の爲めに、他を顧みるに遑なく、北米合衆國亦、支那の政治に干與せざるを以て、其定策と爲すため、支那としては、我日本に依頼するの外なし、況んや我と相親睦し、相衝突するが如きは、其の欲せざる所にして、又爲す能はざる所なるに於てをや、世間或は、日支交涉甚だ困難なることを稱ふるものあれども、其實は、只交涉が長引きたりと云ふのみ、初めより何等の危險性を含まざるなり。

支那の政府及び國會の、第一要務は、其財政を整理し、歳計の規模を正くするにあるや、論なしと雖も、差向き、外債に依りて、當面の急を濟ふにあらざれば、整理に著手する能はざる爲體なり。是れ其の借款交涉に、汲々たる所以なりと雖も、其政府及び國會にして、統一と調和とを保つにあらざれば、到底借款の成功を期すべからず。過般我興亞公司借款成り、支那は五百萬圓を獲て、其焦眉の急を救ふを得たりと云ふと雖も、其保證條件たる、鑛業合辨の事は、全く事實無斷に終り、更に新たなる條件を設定せむとして、是れ亦不成立に終りたりと傳ふ、果して此の如くば、今後支那と借款を約する者は、皆躊躇するの情なき能はず。現に北米合衆國財團と、大借款を取り結び、其條件として、數線の鐵道敷設を約束したるも、是れ亦根本的に其約束を改めざる限り、支那人及び、關係列國の故障を招致し、借款は成立すべからず。乃ち支那にして、其財政上の急務を全くせむと欲せば、第一に其政府及び國會の連絡を正くし、豫じめ其の齟齬扞格を、防止するの道を定むるを要す。而して我日本と、北米合衆國とは、共に今日支那に、財政上の援助を與ふ可き地位に在るを以て、日米を中心とし、英佛露諸國と相依りて、新たなる財團を形くり、支那の借款は、新たなる財團にて引受け、債權者相互の軋轢を避け、及び支那に對して、義務履行を監視するあらば、支那と關係列國との關係初めて、此に全きを得可し。今日何人をして、支那の政局を誤せしむるも、蓋し吾人の言の外に出る能はざる可し。

露國の國債豫算

(第廿八號十月一日發行抄譯) 露國財政商工時報

露國大藏省、銀行局、特別官房は明年一月一日に於ける露國々債に關する豫算を編成し之を立法府の審議に附せり右豫算に依れば本年一月一日に於ける國債の總額は百八十八億七千六百七十三萬八百十一留にして來年一月一日迄には總額二百五十二億二千九十三萬六千八百九十五留に達すべく即ち六十三億四千四百二十萬六千八十四留の增加となるべし國債總額に於て右の如き增加を來せる理由は左に列記するが如し

(一)千九百十五年十二月三十日及び千九百十六年六月一日附を以て勅許を得たる短期國庫債券九十億留の內千九百十六年七月一日迄に六十五億留を割引發行したるを以て千九百十六年度の豫算に比し二十五億留の國債增加を來したり

(二)千九百十五年十月九日附を以て勅許を得たる英貨短期國庫債券一億七千四百六萬磅の割引發行を爲し十六億四千六百十七萬二千四百五十留の國債增加を來したり

(三)佛貨短期國庫債券四億九千法を割引發行し一億八千三百七十五萬留國債增加を來せり

(四)千九百十五年四月十六日附勅令に基き米國に於て從前發行せる千二十萬弗の短期國庫債券に代へ千百萬弗の短期國庫債券を發行し差引八十萬弗即ち百五十五萬四千七百二十留の國庫債務增加を來せり

(五)勅令に基き日本國に於て五千萬圓の短期國庫債券を發行し四千八百四十三萬五千留の國債增加せり

(六)五分五厘利付短期軍事公債額面二十億を發行せり

(七)千九百十六年上半期中三分利付永久預金四十八萬七千八百四十四留及び四分利付永久預金二百八十六留受入を爲せり

(八)永久預金による借入金百〇五留の減少を行へり

(九)定期支拂法により諸國債金三千六百十九萬四千百十一留を償還せり

以上記述したる處を綜合するときは明年一月一日に於ける我國々債總額左に記するが如き數字となる

國債殘存額 (單位留)

(一)十分の一『インペリアル』單位の留貨を以て借入れたる或は特に外國貨幣單位を以て借入れたる國債	無期限	五〇、九五八、一九〇
	期限附	二七四三、九七三、〇三八
(二)十分一『インペリアル』單位留貨を以て借入れたる國債	無期限	三、二六五、四七二、二八五
	期限附	八、四八〇、五六九、四八二
(三)短期國庫債券	露國內發行	六、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
	外國發行	四、一七九、九六三、九〇〇
計		一五、二二〇、九三六、八九五

備考 要者曰く『インペリアル』とは舊露國金貨の名稱にして十留の金貨に相當したれども其後は十五留を以て『インペリアル』となせり

本年度に於ては國債利子支拂の爲め六億五千二百七十七萬八千六百二留を計上したるが來年度には六億六千九百四十一萬五千留を支出するの豫算なり即ち千六百六十三萬千四百三留の增額となる其理由を列記すれば則ち左の如し

(一)國庫債券利子三十萬留(二)千九百十六年五分五厘利付短期軍事公債利子五千五百萬留(三)三分利付永久預金利子一萬四千六百三十二留及び(四)四分利付永久預金利子十一留の支拂增加を生じ一方に(一)短期國債國庫債券の利子三千六百九十六萬五千五百六十五留と(二)消却濟債務利子百七十一萬七千六百七十五留の支出減少を生じたり又國債元金消却の爲來年度豫算として五千十九萬四千六百九十五留を計上せり即ち本年度に於けるより千三百八十二萬四千三百二十五留を增加せり此增加を來せるは諸國債消却に充當すべき諸拂出金(之より本年度と同じく六萬留の債務減少すべし)と銀行手數料二千八百五十留增加(本年度に比し十三萬千七百五十留)國債發行に要する諸經費八十九萬八千六百二十三留(本年度より五萬四千三百八十五留を減ず)の變化を生じたる爲めなり

以上記述せる國債利子支拂及び國債元金消却に關する豫算上の變化を綜合して千九百十七年度の國債經常歳出豫算を編成するときは七億二千七十九萬五千七十三留となる即ち本年度豫算に比し三千四十五萬五千七百二十三留の增加となるなり(終)

朝鮮に於る虎列拉の今昔

ゲール博士の贊頌

ゲール博士は今年の虎列刺流行に際し當局者が之を豫防撲滅するに適切の手段を執りて、此恐ろべき病疫をして猖獗を逞にするを得ざらしめたるを多とし、一文をソウル、プレスに寄せて其功を讃頌したり其文大要左の如し

虎列拉病が最初朝鮮に流行したのは西曆千八百二十一年今より凡そ九十五年前の頃で、北鮮鴨綠江を經て滿洲方面より侵入した、是れ實に其當時の鮮人にとりては强猛勇の蒙古韃靼人等の侵入より恐るべきものであつた、何となれば彼等の侵入には、武器を以て抵抗し得べきも此の形無き敵に對して全く施すべき手段方法が無かつたからである。當時の記錄に依れば虎列刺は特に平安黃海二道に亙りて其猛威を逞ふし、これに罹りたる者は殆ど十中の九迄は死亡したといふ。時の王であつた純祖は此慘狀を自己の犯したる罪と不德とに對する天の膺懲であると見て百官を召し、彼が不德より生じたる前代未聞の災害を救濟する唯一の方面は天に祈禱を捧げ、謹愼の意を表するにあると宣せられた、玆に於て百官は其旨を奉じて平安黃海二道の民に祈禱をなさむことを命令した其後と雖も此の恐るべき傳染病は幾度と無く朝鮮に流行したるが、就中西曆千八百八十六年今より凡を三十年以前に流行したるもの最も慘狀を極めた、海州に居る朝鮮人某の話によれば、當時此病が市中に侵入したので彼の父母は其の豫防策を種々相談して居ると夕方急に傳染して二人共其の場に倒れたと云ふて居る當時市の小西門及び水口門より運び出されたる死者の行列が如何に慘憺を極めしかは當時の光景を目擊せる者の猶ほ記憶する處であつて、市民はこれに對し殆んど施すべき策が無く、徒に病魔をして猖獗を逞くせしむるのみであつた

叙上の實例に反し、當局者が本年の虎列拉の流行に際して擧げた功績は誠に嘆賞に價する處である。恰も勇敢なる佛兵が獨兵のヴェルダン侵入を見事に防守したる如く、彼等が周到賢明なる用意と努力と科學的智識と相俟て遂に其蔓延を防守し得たのである、當局者が市民に此恐るべき病症を通俗に說明し、一致協力して其豫防及び撲滅に從事するの必要を感知せしめ、最も迅速に罹病者を隔離したるは誠に賞讃するに餘りある事で、昔日病毒の猖獗慘狀を目擊したる者は須らく今回當局者が擧げたる偉大なる功績を認めて感謝の意を表せねばならぬ

朝鮮の古城郭(三)

八木奘三郎

(四)歷代城郭の變遷(承前)

(乙)三國時代の城郭(其四) 羅、濟、麗三國の古城郭、其國都城の大なるもの又は最古の分に就ては己に記述し終れるに依り、以下平壤城の事に移りて一言せんと欲す、之れ當城郭の名高きにも拘はらず、世上其沿革を細叙研究せる人之なきを以てなり、蓋し平壤の地は漢族東漸の根據たり、半島文化の淵源たり、又城郭築造の初地なれば、朝鮮古來の變遷若くは其發達史を編せんとするものは先づ第一に手を此地に染めざる可からず、然るに今時に至るも其事なきは頗る怪む可きことなり、予は此地を通過せしことあれども城郭巡覽の機を得ず、充して調査に從事せし事なしと雖も、本篇記述の順序として之を除外すること能はず、故に其所見は未だ熟せざるも、聊か平素信ずる所を述て博く世人の教を請ふことゝなせり

平壤城の記事は周書に始めて見ゆ、今其文を擧ぐれば次の如し。

高麗者、其先出自夫餘、(中略)其城東西六里、南臨浿水、城內唯積倉儲器備、寇賊至日、方入固守、王則別爲宅於其側、不常居之

又隋書を見るに次の如く記せり。

高麗之先、出自夫餘、(中略)都平壤城、亦曰長安城、東西六里、隨山屈曲、南臨浿水

又三國史記(第三十七卷)地理志(四)に曰く。

平壤城、似今西京、而浿水則大同江是也、何以知之、唐書云、平壤城漢樂浪郡也、隨山屈繚爲郛、南涯浿水、又志云、登州東北海行、南傍海壖、過浿江口椒島、得新羅西北、又隋煬帝東征詔曰、滄海道軍、舟艫千里、高帆電逝、巨艦雲飛、横絶浿江、遙造平壤、以此言之、今大同江爲浿水明矣。則西京之爲平壤亦可知矣。唐書云、平壤城亦謂長安、而古記云、自平壤移長安、則二城同異遠近則不可知矣云々。

以上三書の中、周書、隋書は共に記事に特長あれども、史記に至ては單に浿水の大同江たることを述るに過ぎずして他に何等の特長なし、されば當時鮮人の地理、歷史等に對する思想は略ぼ見るに足る可し、而して此三書中、周書に東西六里と云へるは何尺なるや不明なれども、普通の支那里數にすれば三十六丁にて日本の一里に當れり、但し右の横幅は明記せざれども一方大同江に臨み居たることは確實にて、又隋書に隨山屈曲とあれば、其位置は願ふに牡丹臺箕子廟方面の山地に掛れりと覺しく從つて鰐鱷の容易く見わざる爲め其記事を略せしものならん

第四回朝鮮短歌會選歌(四)

(二點) 京城 ぜいたらう
秋くれば神經症を病むと云ふ男となりし運命悲しも

(同) 新湊 吉田富士東
秋空は日毎にすみて裏山の朝をしずかに百舌鳥鳴くきこゆ

(同) 京城 長 城
千里より悲しき秋の風來たる君を思ひて夕戸に立てば

(一點) 京城 村田比呂夢
若ければわが世の秋もひし〳〵と身にはこそ泌め落葉の林

(同) 京城 村田比呂夢
病葉の靜心なく散るみればわが十八の秋深みかも

(同) 江華郡 宮崗與八郎
市に住めば稻穗の色も知らねども古里思ふ秋の夕ぐれ

(同) 清涼里 沼上 文泉
山間の傾斜の畑の蕎麥の花白くふるはせ秋の風ふく

(同) 新湊 吉岡富士東
秋は來ぬ小波さわぐ南の港の街は霧こめぬべし

(同) 龍山 三村 秋月
自らを不孝ものよとさげすみぬ菊さく庭のわが誇にも

(同) 水原 永 岡 熾
秋の野の紅葉にまぎろくれなゐはよぼかやの上のたうからしなり

(同) 同 人
自轉車で朝風きつてつゝぱしる前を羽の音きじ高く飛ぶ

(同) 江華郡 宮崗與八郎
苔鮮の封ずる碑銘默誦して偉人をしのぶわが晩の秋

日報詩壇

立儲大典恭賦 魯石 成田 碩

瞻仰儲宮耀劍光。嵩呼萬歲古扶桑。當年皇祚共天壤。此日聖謨新憲綱。雛鳳秋冲振羽翮。鶉階菊傲滿林霜。封疆賴有甞仁雨。欲獻九如詩一章。

時計貴金屬指輪商
地方の御注文は代金引換にて送る
京城本町二丁目 京城銀行前 三浦天龍堂 電話一二〇〇番 振替京城三〇四番

新刊圖書御案內

書名	著者	定價
趣味の傳説	五十嵐力	一、二〇
人生の旅行	村上浪六	九五
自修リーダー研究	正則英語研究會	九〇
彼等キップリング作	平田禿木	五
英文典新釋	清水起正	九
ゆかり文庫	泉鏡花	一、五〇
印象派以彼	木下杢太郎	一、五〇
全評名犬物語	コナンドイル	九五
家事文庫、手藝	大妻	一、五〇
ドストイエフスキイ	新城和一	一、三〇
株式投機之手引	伊藤美太郎	一、四〇
社會分裂の時代	中村孝也	一、三五
中等教科英和新辭典	佐久間信恭	特九〇
朝鮮行政法要論	永野清	二、〇〇
殖民原論	永井柳太郎	六〇
民法釋義物秘の下	中島玉吉	二、八〇
日本債權法總論	鳩山秀夫	一、八〇

巖松堂書店 京城店 第二京城店 仁川店
京城本町二 電話一一六六番 振替京城二四五四番

朝鮮彙報

朝鮮彙報 大正五年十一月一日 (定價貳拾五錢 郵稅參錢)

主要目次

新舊朝鮮總督
仁川築港閘門築造工事の實況
新羅眞興王巡狩碑文
永興郡畜產組合品評會參考品陳列場

口繪

總督の更迭
大同江附近の史蹟……文學博士 黑板勝美
行政 布敎狀況◎各道行政區域名稱一覽表(忠淸北道)
財政及金融 八月中の經濟概況◎九月中の經濟概況◎九月中の朝鮮貿易◎大阪對朝鮮貿易◎東京に於ける朝鮮米槪況
產業 果樹栽培指針(二)◎勸業模範場木浦支場調◎咸鏡南道新興の漆植栽及培漆事業◎テウセンマツ播種季節種子貯藏並發芽促進法に就て◎染料たる楓葉の輸出◎永興畜產組合主催畜產品評會
交通及土木 遞信事業槪況◎通信事業より觀たる朝鮮各道の發展◎九月中の鐵道運輸
司法及警察 不動產登記制度◎乞丐浮浪者の取締狀況
研究資料 朝鮮に於ける毒蛇に就て室谷博士◎釜山風景の改良策東京農科大學田村講師
外國事情 滿洲通貨一斑(三)朝鮮銀行調査◎最近露國の經濟事情◎東淸鐵道本線及烏蘇里線の成績◎歐洲行貨物の稅關檢査省略◎地方通信◎雜報◎質疑應答◎叙任及辭令◎統計◎法令及通牒◎判決例
米國郵政槪況……遞信事務官矢野義二郎
▲投稿を歡迎す 原稿締切期限每月十日
▲販賣店 東京神田巖松堂及朝鮮各地ノ書店ニ販賣ス
▲廣告料 一頁十圓 取扱店 京城 ウツボヤ書籍店

TONOSALVIN
白檀油代用藥 ゴノサルビン
白檀油の代用として
內服淋疾治療劑として其効果を公認せられたる白檀油と化學的集成を等ふす治療的効果白檀油と相伯仲し殆んど消化障碍なき特徵を有す本邦產植物より發見せる純內國產なれば價格低廉なり夫故に本品は最も優秀卓絕なる好評嘖々たり
◎文献見本醫家に限り本社より進呈す
發賣元 大阪市外中津町光立寺 三友製藥合名會社
特約店 大阪道修町 武田長兵衛 東京本町 小西新兵衛

再製鹽製造販賣
關東洲鹽靑島鹽直輸入販賣
大日本鹽業株式會社總代理店
仁川府本町二丁目四番地 合名會社 鈴木商店仁川出張所 電話長八三番 受信略號(ジンセン、カネタツ) 發信略號タツ又はタ
釜山府本町二丁目 合名會社 鈴木商店釜山出張所 電話長七六一番 受信略號(フサン、カネタツ) 發信略號タツ又はタ
原鹽再製鹽共常に多大の貯藏有之候に付如何に多數の御注文と雖ども誓て充分なる安價を以て貴需に應じ可申候間多少に拘らず續々御注文仰付被下度奉希上候

第三版

仁川米豆取引所

寄付	一五、一〇	一五、四〇	一五、九[illegible]
高値	一五、二六	一五、六〇	一六、二三
安値	一五、一〇	一五、四〇	一五、九三
止め	一五、二六	一五、六〇	一六、一八

△七日後場 長限後者十六圓四十八錢東京十七合

△仁川受渡高 [illegible] 二十錢△先限寄付十六圓七十五錢

三部を參つたるが大阪三節七十八錢[illegible]錢五節九十一錢止めと新高値の十七圓了度と大暴騰を釋して人氣沸騰し一圓七十五錢と新高値に上放れたるが利喰と新規賣漸く多く一面新規[illegible]出したるも三錢と押し大飛躍を演出し結局七十四錢と强硬の成行を示して散[illegible]たる錢[illegible]じたるより大氣大に沸騰し七十五錢と更に新高値に上伸し頻ふる大混戰を演じ七十四錢と散會を告げたり市況は益々人氣沸騰し頗る大商盛を示したり不知今後の成行や如何

△大阪の成行 昨日[illegible]止め十六圓九十三錢[illegible]報じた

△現物界 地廻新米十一圓六十錢より十二圓三十錢迄鳥山中白十二圓九十錢等にて五千二百餘叺川米跡氣配更に高人氣を唱へ居れり

△大豆景況 白川大豆八圓九十錢當川大豆八圓五十錢實物

[illegible]

仁川米高 五萬七千二百五十石
寄付 十二圓五十七錢
止め 十二圓六十錢
高値 十二圓六十七錢
安値 十二圓七十一錢

●一審判決 [illegible]吉(三)同所人力車夫澤田源三郎(四〇)同大友久藏(三)同出利葉長太郎(四〇)同東山六三郎(三)の七名は六日京城地方法院に於て上畑山出利葉野村は罰金十五圓澤田大友高田の三名は各罰金二十圓の即決處分に附せられたり

○警察權は飽迄問題

鄭家屯事件に關する對支交渉中警察權の條項に就ては帝國政府は飽く迄之れを主張す可しと(東京電報)

○選擧勝敗形勢未し

米國に於ける七日午前中の選擧豫想は共和黨の勢力を有する北部地方に多數投票を得べき模樣なるも未だ勝敗を豫言するは困難なりと(紐育電報)

○大統領選擧賭割合

ウキルソン氏の後援者は六日夕刻ウォール街に於て大統領選擧の賭に巨額の賭金を投じウキルソン氏十に對しヒューズ氏九の割合を以て盛んに賭を行ひしが午後よりの報道に依れば平等の賭率にて巨額の賭はれたりと(紐育電報)

○閑院宮御觀戰

閑院宮載仁親王殿下には陸軍特別大演習御觀戰の爲め同妃智惠子殿下御同伴八日午前八時半東京驛御發輦岡山へ成らせらるゝ筈御妃殿下には京都に御下車御三日御滯在遊ばさるゝ由(東京電報)

○贈位御裁可

天皇陛下大演習地行幸を機とし地方勤王志士碩儒に對する贈位又は位階陞敍の御沙汰は內閣に於ける銓衡調査を終り上奏御裁可を經たるを以て十五日の大觀兵式當日宗秩寮より發表の筈(東京電報)

○帝室制度審議會

總裁委員幹事任命

六日皇室令第六號を以て帝室制度審議會規則發布の結果七日左の如く總裁委員及び幹事の任命ありたり(東京特電)

從二位勳一等子爵 伊東巳代治
帝室制度審議會總裁被仰付

法學博士 岡野敬次郞
同 平沼騏一郞
有松英義
法學博士 倉富勇三郞
同 奧田義人
石原健三
法學博士 鈴木喜三郞
馬場鍈一
二上兵治
山內確三郞
法學博士 富井政章
帝室制度審議會委員被仰付(各通)

宮內書記官 吉田平吾
宮內事務官 淺田惠一
帝室制度審議會幹事を命ず(各通)

○首相山田行

七日午後名古屋に到着せし寺內首相は直に伊勢山田に向ひたり(名古屋特電)

○政友會の態度

政友會の來議會に對する態度は憲政會の政府不信任には反對なりと(東京電報)

◎奉天より

▲自[illegible]歩せるを威嚇し民國陸軍の改良を謀る[illegible]る運動は日本化學上の外なきを自覺し[illegible]砲艦建[illegible]中なりとの事にて北京政府[illegible]より[illegible]政府[illegible]に抗議を申込みたる[illegible]

新成の黑龍江大鐵橋の架工事も[illegible]

○內閣出張所設

陸軍大演習中關岡に臨時內閣出張所を設置す可し(東京電報)

□聖上御發輦

天皇陛下には豫て仰せ出されたる如く陸軍特別大演習御統監の爲め七日東京驛御發輦岡山縣へ行幸遊ばされたり此の日陛下には午前五時御起床大元帥の御軍服を召させられ大勳位菊花章其の他の勳章を御佩用同六時四十五分宮城御出門內山侍從武官長御陪乘波多野宮相以下の諸官供奉近衞師團兵堵列奉迎中に東京驛に向はせられ閑院宮、東伏見宮、伏見若宮の各殿下を始め奉り皇后宮御使大森大夫東宮御使濱尾大夫並に東郷元帥、寺內首相、奧長谷川兩元帥、各國務大臣其他文部百官の奉迎裡に同六時五十分東京驛御著諸皇族方に御對面東郷元帥以下に御會釋を賜ひつゝ長谷川局長の御先導にて玉歩をプラットホームに運ばせ給ひ御召列車に乘御あらせられ同七時前記各皇族方及び百官奉送中に御豫定の如く御機嫌麗はしく御發輦遊ばされたり(東京特電)

○正木校長譴責

東京美術學校長正木直彥氏は會計監督不行屆の廉に依り去る四日附を以て文官懲戒令に依り譴責せられたり(東京特電)

○大屋長官出發

上京中なりし大屋鐵道局長官は七日午後七時東京驛發列車にて歸任の途に上れり(東京特電)

○辭令

七日左の如く辭令ありたり(東京特電)

從四位勳三等 林 市藏
正五位勳四等 井上孝哉
村田俊彥
韓 相龍
依願免東洋拓殖株式會社理事(各通)

◎浦鹽禁輸調査

近著の內地諸新聞紙上に露國政府は浦鹽斯德港に輸入禁止令を發布し軍需品以外の一般商品輸入を禁止せんと決定せる趣を報じ且又同地在留者よりも同樣の入電當地商店に達したるを以て斯くては釜山貿易は勿論其影響の及ぼす所大なるを以て釜山商業會議所は此程役員會を開き事實調査に着手し一面釜山駐在露國副領事ウエスコロフモーフ氏を經て在東京露國大使館へ事實の有無を照會せられ度旨六日依賴したり(釜山)

◎十月中朝鮮貿易

前年同月に比し十二割五分の增進
一月以降の累計一億萬圓に垂とす

▲十月出入高 本年十月の朝鮮貿易價額は輸移出品四百八十八萬二千百四十五圓輸移入品七百八十萬七千三百二十三圓、合計一千二百六十八萬九千四百六十八圓にして之を前年同月に比較すれば輸移出八十七萬五百餘圓、輸移入百六十三萬九千九百餘圓、合計二百五十一萬五百餘圓卽ち十二割五分の增進なり

▲本年累計額 本年一月以降十月迄の朝鮮貿易累計額は輸移出品四千三十四萬七千餘圓輸移入品五千八百八十二萬七千餘圓、合計九千九百十七萬四千餘圓にして殆ど一億圓に垂んとし之を大正四年の同期に比すれば輸移出品四百五十三萬千餘圓輸移入品千七十二萬八千餘圓、合計一千五百二十五萬九千餘圓卽ち約一割八分の增加を呈し輸移出入の權衡は一千八百四十七萬九千餘圓の入超なるも一面に於て別途金銀地金の輸出超額一千二百十七萬五千餘圓を計上するを以て相殺するときは六百三十萬餘圓の入超に過ぎず

▲輸移出狀況 十月の輸移出主要品を前年同月に比較觀察するに農產物に在て(一)米は市場の大勢概して軟弱なるも新穀出廻期に至りたる爲め九萬八千餘石の出荷あり前年同月の十五萬六千石に比すれば著しき不振なりと雖も前月の六萬一千石なりしに比するときは相當の增加なり(二)大豆亦た十月に入りて開港出廻り著しく三十萬三千餘圓の增進を告げ(三)其の他農產物中棉花は本年十萬千餘圓を減じたるも繭は引き續き好況にして二萬六千餘圓を增出したり鑛產物の輸移出は(四)鐵鑛、石炭とも大差を認めざるも(五)金鑛は約十萬圓を增加し久原精鍊所の含金銀粗銅亦た四十三萬七千餘圓を計上せり、次に製造品に在ては(六)皮革製品約六萬圓煙草十二萬七千餘圓を增出し其の他各種の製品概ね好況を告げたるが爲め輸移出の總額に於ては前述の如く八十七萬餘圓卽ち二割以上の增進を示せり

▲輸移入狀況 更に輸移入主要品に就き前年同月に對比するに食料品に在て(一)米は僅に四百石にして殆ど注目するに足らず粟は收穫期に入れると滿洲粟の入荷引續き不振の爲め一月以降の累計額八千石にして之を前年同期の十萬二千餘石に比すれば著しき差異あり(二)食鹽は需要期に入りたると朝鮮に於て支那鹽の入津七萬二千餘圓を增し其の他砂糖の如き亦た二萬四千餘圓の增進を示し(三)衣服料品に在ては紡績糸及び金巾に幾分減少したる外生金巾は三十七萬餘圓、諸機械十八萬四千餘圓其の他木材三萬八千餘圓を孰れも增進し(四)產業用品は熟鐵三萬二千餘圓を增加し(五)一般消費品に在ても紙、マッチ、煙草等概して購買力の旺盛なるものあり前年に比し輸移入を通じて約百六十四萬圓卽ち二割六分の增進を告げたり

▲出入重要品 今本年十月及び一月以降累計に於ける輸移出入重要品價を示せば左の如し

輸移出重要品(圓)

品名	本年十月	一月以降累計
米	一,二六五,八五三	三,三二八,三八六
大豆	七六六,八九五	三,三八八,四七三
其他の豆類	三〇,〇九六	六四,五三三
鮮魚	一,二五七	一三五,六一六
乾魚及鹽魚	一六八,六四〇	八二七,一六七
人蔘	三,〇七〇	一,二七二,七一五
棉花	四三七	一,〇九三,〇一〇
繭	五一,二四六	一,四六一,六〇四
金鑛及沙金	七四,六一九	九四九,九〇九
鐵鑛	六三,〇六八	四七三,六〇一
重石	一四,六二四	一,四二九,八五五
石炭	四〇,二四八	三五九,七八五
含金銀粗銅	四三七,三八八	二,八七二,〇〇八
牛皮	五三三,二四三	二,八五九,〇三五
皮革製品	三〇一,五三六	二,二六五,四〇五
煙草	一五〇,二八二	四九六,二〇七
生牛	一四六,九二九	三三〇,九〇九
木材及板	一,九六一	二三一,一七五
其他諸品	八九八,八〇三	七,六一八,三五七
合計	四,八八二,一四五	四〇,三四七,七七九

輸移入重要品(圓)

品名	本年十月	一月以降累計
米	五,八五九	一九三,六七〇
粟	三六二	七四,七六五
小麥粉	九〇,一四二	七四二,八〇八
食鹽	一七〇,八八九	九二九,七〇二
砂糖	一四〇,三八七	一,五四六,八〇一
石油	二三〇,八三四	一,五五三,四七八
綿花及打綿	一三〇,〇四二	五〇八,三六七
綿糸	二三二,一五一	二,四三〇,五七六
生金巾及シーチング	一,六〇,七七九	五,二八〇,五二七
晒金巾及シーチング	三三七,九〇〇	二,三五八,六四二
天竺布	七七,四七九	五二二,六八七
綿繻子及綿イタリアンス	三八,三五六	五六二,五七四
日本木綿	三〇八,二三五	二,二二五,九九三
支那麻布	五一	一,六一二,五四七
毛織物	四〇,四三八	四七一,八九三
絹織物	八七,一三七	一,〇〇七,〇五八
立綿布	一八,五八九	一〇九,四九八
洋紙	九三,二一九	六二八,六九七
其他の紙類	一〇三,二六三	九四二,二〇三
熟鐵	一三三,七四一	八二七,六〇三
鐵管及管	一二五,九二七	一七一,六二〇
軌條及附屬品	一一,四五六	四八九,八五八
鐵道機關車	八〇,八四一	一四一,一五五
諸機械	二九一,五四三	一,五九二,九三〇
煙草	九二,五二三	四六,四三五
石炭	一九三,五四三	一,五一〇,六九八
大材及板	一三一,八一二	一,二九〇,五八七
セメント及石灰	七九,七一九	六八三,八二二

▲港別貿易額

尙ほ本年十月並に一月以降累計に依る港別貿易額を示せば左の如し

輸移出

港別	本年	一月以降累計
仁川	五一〇,四四二	五,三一八,八二一
釜山	九三〇,四九七	四,四五七,〇八六
元山	三八六,五七八	三,〇二六,七三三
鎭南浦	七八四,五八六	五,九九一,六四一
京城	二四二,一八六	一,七〇二,〇八四
群山	二二八,三三九	三,七九五,八〇二
木浦	一三四,五二[illegible]	一,三七二,二〇八
大邱	一六,〇三[illegible]	一六〇,七六〇
馬山及鎭海	四四,二五八	一八三,七七八
淸津	六六,〇七八	二五七,七九五
城津	八〇,一七五	六三四,二六五
新義州及龍岩浦	[illegible]二四,二四三	二,二七三,七五九
平壤	三四一,九九九	三,一八四,一九九
合計	四,八八二,一四五	四〇,三四七,七七九

輸移入

港別	本年	一月以降累計
仁川	一,五八二,二八〇	一四,〇四一,九三一
釜山	一,七六〇,三九〇	一三,一一五,九一七
元山	四〇四,六二〇	三,五五五,八九一
鎭南浦	三九八,九七七	三,八七九,九四二
京城	一,五七四,七三二	二,九三〇,六〇七
群山	三〇六,九一一	一,七六八,九四九
木浦	一六九,七一四	一,四〇〇,四六五
大邱	二七六,四七〇	一,八五四,〇一五
馬山及鎭海	八四,一〇六	七七三,三八一
淸津	四〇三,九九〇	二,〇七一,八〇一
城津	八九,九七三	七二〇,三三一
新義州及龍岩浦	四三七,一二四	二,七四九,五七五
平壤	三一八,一五〇	二,四六三,五八九
合計	七,八〇七,三二三	五八,八二七,一八一

◎客月京城貿易

京城稅關出張所調査に係る十月中の京城貿易狀況を聞くに貿易總額百八十一萬六千九百十八圓內輸移出額二十四萬二千百八十六圓輸移入額百五十七萬四千七百三十二圓にして輸移出入品の主なるもの及び其價格左の如し

▲輸出及び移出品

品名	價格(圓)
人蔘	二,〇六五
牛皮	四六,〇三五
鹽	二九,〇一九
肥料	一,七三八
其他	六三,〇二九
合計	二四二,一八六

▲輸入及び移入品

品名	價格(圓)
小麥粉	一七,九六七
砂糖	一五,二四二
清酒	二三,三五一
綿糸及打綿	二三,三三四
生金巾及生シーチング	一六三,五六四
晒金巾及晒シーチング	三六,一五四
日本木綿	二四,四六八
毛織物	二二,六四六
絹織物	一一,七九〇
靴及履物	二三,六四二
洋紙	二八,二四九
其他の紙類	四七,四七二
煙草	七九,〇四四
其他十數種	[illegible]
合計	一,五七四,七三二

◎本年蔘業成績

蔘業專賣課開城出張所に於て本年度收納したる紅蔘原料は總數十六萬二千五百三十三斤此の賠償金額は八十四萬二千四百八十一圓九十五錢にして昨年に比し二十萬圓以上の增加を來したり之は一ッに耕作者及び監督官の注意行屆きたる爲め病虫の被害なかりしに因ると倚一ッは耕作者の一般增加したるが爲めならん從つて一般市況も頗に加はり一時悲況に陷らんとせる人氣も漸く盛となりたる有樣なり(開城)

◎鐵道倉庫成績

十月中に於ける鐵道局營業所の鐵道倉庫成績を見るに入庫二千三百七噸[illegible]出庫二千二百四噸收入六百八十七圓九十四錢なり

◎記念切手賣行

立太子禮當日其筋に於て發賣せる記念切手賣行成績を聞くに十錢は殆ど全部を賣盡し一錢五厘は賣行良好なりしも全部の賣切を見るに至らず三錢は多少賣殘りたりと而て當日の全賣上高は目下調査中なりと

◎利川郡農產品評會

七日京畿道利川郡邑內に於て入箇面聯合農產物品評會開催道よりは阿部技手出席せり

◎補充軍馬受領出張

朝鮮駐劄軍用定期補充馬受領の爲め憲兵隊司令部附渡邊一等獸醫は下士六名と共に往復約三十日間の豫定を以て宇都宮、豐橋、京都、名古屋、大阪の五箇師團に向け六日出發せりと

◎熊本縣人會送別宴

熊本縣人會の主催に係る前東拓理事林市藏井上孝哉兩氏の送別會は七日午後六時より京城ホテルに於て開會席定まるや竹下氏發起人側を代表して送別の挨拶を爲し之に對し林井上兩氏交々起つて謝辭を述べ夫れより酒宴に移り後ち兩氏の萬歲を三唱して盛會裡に散會せり因に井上氏は同縣人に非ざるも從來同縣人會に密接の關係を有し且つ種々の援助を與へられたるに依り特に招待せしなりと

滿洲里より

(第十五信) 琴花

○露支の國境として兩國の關吏が眼を見張ればこそ名高くもあり旅客を引留めもすれ實質に於てはつまらぬ田舍の一驛站なり、四方は嫩草山を小さくしたらむ綺麗な丘にて包まれ露人五千支那人六千日本人百七十六名の居住を見る、開戰前は露人六千支那人四千の割合なりしが壯丁の徵集されて第二國民兵迄も召されたれば露一千を減じて支一千を加へしなりと云ふ、地に一物を產せず、燒きたる荒野の一部に胡蘿蔔、白菜の少許を作りて僅かに住民の食料に供し得るのみ、諸物價高價にして石油一罐七留五十哥、林檎一顆二十哥にて大根一斤は七哥と呼ばれたり

○勇ましきは我が醜業婦五個の樓亭に陣を張るもの無慮六七十名、驚くべき二百三十餘地に蝦花袴して揚行潤歩の狀又奇拔とも奇拔にして月收多きは四百留を超ゆるもありとか。

○此地は海拉爾と共に外蒙古の咽喉なれど蒙古人の部落迄は程遠くして天幕露營も二週間を要すと云ふ東方五里札賴諾爾より南へ直徑三里にして呼倫の巨湖あり鯉、鮒、鯰、シチユウカ等の魚類を產する夥しく年額數十萬留に及び晩春より夏秋の候に漁して之を當地の養魚地に貯へ逐次需要に應じて莫斯科以東の各要市に輸送し冬期は凍結せしめて最も多量に輸出するを例とし、居留民長安生順一氏之を專業とせり、本年は不漁にして品稀なるを以て刻下鯉一尾七留五十哥鯽同四五十哥の市價を有すと聞く

○胡沙吹かば曇りもやせん、陸奧の蝦夷には見せぞ秋の夜の月の蝦夷にはあらぬ蒙古の一部今から胡沙吹く風の激しきは哈市にもまさりて地の凍りたれば輕き馬橇のみ空滕として霧の籠るがごとし(二十三日)

南言北語

豫期の通り米國大統領選擧は非常に盛な勢で千八百九十二年彼の民主黨のクリーブランド氏が共和黨のハリソン氏を破た以來の混戰らしい▲愈々選擧の行はれる最後の五分間は卽ち本日である▲最初ヒューズ氏の勢は頗る旺盛であつたが選擧日の迫つて政戰將に酣の頃から大分不人氣になつた樣だ▲其れと云ふのも氏の演說は餘りに些細な事の攻擊のみで米國民の國民性を發揮するが如き大精神が缺げて居ると個人的人氣が甚だ昂らぬやうになるらしい▲不人氣であつたウキルソン氏が急に人氣を恢復したのは勞働問題や其他種々の社會政策を斷行した事と▲兎も角戰爭の渦中に投じなかつた事と▲金力に對抗して克く多數の市民の幸福を圖ると云ふにあるらしい▲其處で約四週間前の有樣はヒユース氏十對ウキルソン氏九乃至七迄漕ぎ附けた▲が、一說によると細密に計算せばウキルソン氏の得票の確かな處は百九十七票ヒユース氏が百九十二票だとも云ふ▲併し去就の決せないのが三州ある▲其總投票數は六十六票であるからまだ何とも云へないだらう▲一體大統領當選に必要な得票數は二百六十六票であるから玉手箱の內は却々窺知する事も出來ぬ▲茲に面白いのは新に現はれた婦人選擧權だ▲婦人と云つても馬鹿にならぬ四百萬人の投票權がある▲ウ氏最負は勞働者階級の婦人で中等階級はヒ氏の味方であるらしい▲其れから國民婦人黨はウ氏反對で聯邦婦人選擧權側はヒ氏の反對らしい▲何でも今日の米國は猫も杓子も目の色を變へて騷ぐのだらう▲マリナ號事件もドイチユランド事件も元より歐洲戰爭などには見向きもすまい▲サア誰れが勝つか斯く申す言子迄も來電を待ち兼ねる

人事消息

▲結城繁氏(湛野採金所長) 七日夜入京南山旅館へ
▲櫻井昭村氏 入京中の處八日午前七時五十分南大門驛發にて內地へ向ふ筈
▲今西龍氏(京都帝大文科助教授)
▲稻田靜彥氏(仁川商業會議所副會頭) 同上 入京中の處七日夜退京
▲和田友太郎氏(同書記長) ▲河合律五郎氏(同議員) 同上

◎大邱繁榮會組織

大邱學校組合會[illegible]三時より[illegible]協議會を開く[illegible]

[illegible]月二十六日より南滿洲產物一切の受附[illegible]

▲擊文 風強かる[illegible]
▲朝鮮西部[illegible]

京城府公文

府協議會ノ諮問ヲ經朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ府吏員定員條例中左ノ通改正ス

大正五年十一月六日
京城府尹 金谷充

京城府條例第四號

大正三年京城府條例第一號京城府吏員定員條例第一條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ府尹ニ於テ必要アリト認ムルトキハ定員外ニ名譽職府吏員ヲ置クコトヲ得

京城府告示第二十二號

大正五年度京城府歲入歲出追加及更正豫算左ノ如シ

大正五年十一月六日
京城府尹 金谷充

大正五年度京城府歲入歲出追加豫算

歲入經常部
第二款 使用料及手數料 金參千貳百九圓
第五項 屠獸場使用料 金參千貳百九圓
第四款 財產ヨリ生スル收入 金拾五圓
第二項 積立金收入 金拾五圓
第五款 雜收入 金貳百拾貳圓
第二項 物品賣却代 金貳百拾貳圓
歲入經常部計 金參千四百參拾六圓
歲入臨時部
第一款 繰越金 金六千五百壹圓
第六款 繰入金 金六百五拾壹圓
第七款 府債 金壹萬圓
歲入臨時部計 金壹萬七千百五拾貳圓
歲入合計 金貳萬五百八拾八圓
歲出臨時部
第八款 府債費 金參百七拾五圓
第二項 利子 金參百七拾五圓
第九款 土地買收費 金六千五百圓
第十款 屠獸場費 金千四拾七圓
第十一項 屠獸場增築費 金壹萬貳千圓
第十二款 寄附金 金六百六拾六圓
歲出臨時部計 金貳萬五百八拾八圓
歲出合計 金貳萬五百八拾八圓

大正五年度京城府歲入歲出更正豫算

歲入經常部
第二款 使用料及手數料 金五萬五百五拾壹圓
第二項 傳染病院使用料 金九千參百貳拾七圓
第三項 墓地使用料 金參千百五拾四圓
第四款 財產ヨリ生スル收入 金六拾六圓
第一項 基本財產收入 金四拾九圓
第二項 積立金收入 金拾七圓
第五款 雜收入 金九千貳百五拾圓
第二項 辨償金 金九千貳百五拾圓
歲入經常部計 [illegible]
歲入臨時部
第六款 繰入金 [illegible]
歲入臨時部計 [illegible]
歲入合計 [illegible]
歲出經常部
第三款 傳染病豫防費 [illegible]
第一項 雜給 [illegible]
第二項 傳染病院費 [illegible]
第四款 [illegible]
第一項 [illegible]
第二項 [illegible]
第三項 [illegible]
第六款 墓地火葬場費 [illegible]
第一項 雜給 [illegible]
第二項 [illegible]
第三項 修繕費 [illegible]
第四項 火葬場費 [illegible]
第七款 [illegible]
第二項 [illegible]
第十一款 基本財產造成費 [illegible]
第十三項 豫備費 [illegible]
第十五款 削除 [illegible]
歲出經常部計 [illegible]
歲出臨時部
第三款 傳染病院費 [illegible]

宇治茶直接販賣

家庭の御慰藉と來客の御接待に無くて叶はぬ宇治茶の誠實なる通信販賣にて喫茶界に高評を博せり御安心の上續々御用命を乞ふ

御茶銘錄定價表(二百目ニ付)
◎玉露製 ◎煎茶製
[illegible]

製造本店 山城宇治[illegible]
營業所 京都七條東洞院角
問屋 製茶 井上六平
(振替) 大阪[illegible] 東京[illegible]

寫眞
寫眞出張撮影
寫眞銅版亞鉛凸版
最も熟練せる技術を以て迅速に御用命に應じ可申候
京城日報社 寫眞製版部

移轉謹告
本病院月三日より仲町新築病院へ移轉す此段謹告仕候
高木病院 電話七一九番

新刊書御案內
◎論山大辭解全 木村井上共著 特價二、八〇
◎奉西名著危險なる年齡 蘇武共譯 一、三〇
◎同印度文學史 矢崎美盛 一、二五
◎市町村辭典 杉野耕三郎 一、八〇
◎中等教科英和新辭典 佐久間信恭 特一、九〇
◎人生の快樂 大內青巒 一、二〇
◎帝國南進策 副島八十六 一、三〇
◎瀧觀帝國大英國の危機 宮家壽男譯 七五
◎奧樣園藝十二ヶ月上卷 千葉胤二 一、八〇
◎柿本人 麻尾山篤二郎 六〇
◎小說鹿の子しぼり 北島春石 六〇
◎長篇講談羽紫筑前守 桃舍桃季 八〇
◎必ず利くチラシの術へ方 清水正己 八〇
◎大正六年度東京遊學案內 希望館 五〇
◎最新かるた競技秘訣 野村吉月 三〇
◎新武園 寶典第四 鈴木鼓次郎 六〇
◎大正六年當用日誌懷中日記各種
澤山著荷致候

大阪屋號書店
京城本町[illegible]

寫眞の好期節
弊館儀多年東京江木本店に於て修業仕[illegible]
寫眞 京城永樂町二丁目
御家庭御撮影の御用命は迅速出張仕候
電話 一八三三 赤門寫眞館

砲兵曹長張作相以下士官九名は去る二日歸奉し見學の實況を張督軍に具申し張督軍は非常に日本軍術の進…せしむ旨を聲明せりと

▲他臺工事の休止　露人が東滿線の經過する興安嶺上に三個の…るより…り興安嶺附近は積雪三尺餘に達し牛畜類の凍死を出す程の酷寒となりだるより該工事は終に休工せり又今度…甚だしき損失を受くるより南滿京奉鐵道に對する該切符發賣を停止した…城子驛には北滿行きの貨物堆積して殆ど置場なき迄に至り東清鐵道は去…目下寬城子より哈爾賓迄は貨主自身に馬車にて輸送すると

…なるものを組織し以て諸問題を議決せんとし右の組織に關し商業會議所會頭吉村氏發起總代にて八日午後…於て七日開催…出席せり

◉暴風警報（十一月七日午後二時三十分發）

◉這度は鼠疫の豫防の爲に
全力を盡しつゝある神仙臺檢疫所
虎列拉のための檢疫は昨日停止

從來山口、廣島、福岡、岡山の四縣を虎疫流行地と認定し同地方を出發又は經由し來れる旅客に對しては釜山神仙臺檢疫所に於て檢疫を勵行しつゝありしが昨今同地方の虎疫全く終熄したるを以て七日を以て流行地の認定を解除する事となれるが之にて内地全部の流行指定地の認定を解き旅客の檢疫を爲さゞる事となり全く舊態に復す事となれり

八月中旬長崎に發生せし虎疫は間もなく大阪を襲ひたれば内地各地にては俄かに防疫に着手したるが神仙臺檢疫所に檢疫を開始せしは八月二十一日にして十月三十一日迄に停留を命じたる總人員は一萬一千五百七十七名檢便總數二萬五千二百六十六名患者收容二十一名菌保有者二十一名死體收容十名なり試に去る八月二十一日

▲檢疫の實施後　十月三十一日迄に至る事務統計を擧ぐれば▲檢疫汽船數三百三十四隻▲檢疫帆船數三百五十七隻▲檢疫…船數三百八十一隻▲檢問汽船數九十四隻▲檢問帆船數二百三十隻▲停留…船數二百二十五隻▲檢問…數一千六百〇六名▲停船汽船檢便一千四百九十名▲停留旅客檢便八千六百六十名▲通過旅客檢便千八百五十一名▲通過乘組船員檢便二千九百十七名▲釜山海陸其他▲地方委托檢便八千八百四十二名

神仙臺檢疫事務所係員の配置如次　事務所　港吏一、巡査部長一、巡査三、雜役三　汽罐所　機關手一、火夫一、賄…所　…一、時計工三内一名は消毒業務とす同上助手三、培養器調製一、同上助手、豚卵器監視一、保從其他雜役夫十四、賄…消毒夫…停留所　巡査二、雜役夫一、婦八十、看護婦四、

何分患者隊の事なれば開始の當時は各係員に於て多少苦心を要したりしも漸次準備整頓み其宜しきを得るに至れり然れども目下指定地の解除に伴ひ漸次縮少しつゝあり

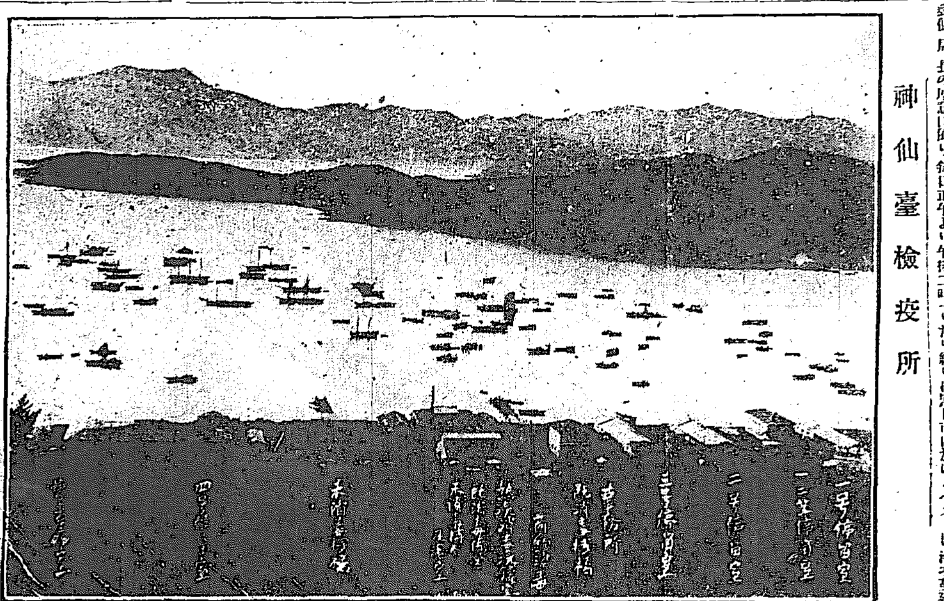
▲檢鏡調査開始　當時停留者數は一日三十名内外より七十名内外を上下し居りしが前府指定地の擴設に伴うて百七八十名より三百名内外を往來するに至り之れに通過旅客及び通過乘組船員其他の地方檢便數を加ふれば多き時は一日千名に達し一日の平均數三百名を下らず然れども一日の平均數より見れば格別繁忙を感ぜざるが如きも日に依りて平均數の二倍若しくは三倍以上に昇る事屢ばあり加ふるに委托アカール培養及び血清菌株反應試驗等諸般の用務を繼續し斯くして今朝の停留者は翌朝の採便を要する事なれば今夜の停留者は明夜の接續列車に聯絡せしむべく檢鏡調査を行ふ故決して容易の業にあらず

▲停留舍　は從來收容力六十名に滿たざる二階建物四十五坪のもの一棟にして停留者の多き場合は待合所又は浴室の一部を盡して收容所に充つる等應急の處置に出でたりしが中途半屋建九十五坪のもの三棟及び二百廿坪のもの一棟を增築せしを以て在來の二階建は之れを二等客以上の停留客收容所に定め之れにて諸事稍々整頓を告げたるも停留所は旅館にあらざるを以て停留者に對し任意の要求に應ずる事の能はざるは遺憾とす食事の事につきては種々考慮せしも何分

▲日數及び客員　の數不定の爲とて便宜上賄食事業として食費は一等二等三等に區別しありしが中途にて三等を更に上下に區分する必要を認めたるが故に改正したりし所は衛生を主眼とするを以て體裁等に重きを置かず食物の定めありて調理法を制限する場合も亦少なからず其外に賣店部の副業として小供の玩具其他煙草等の販賣を設け新聞雜誌菓子小供の玩具其他の日用品の供給に應ずる事とせり尚ほ不便を感ぜし事は通信事務にて之れについては志賀郵便局長の厚意に依り毎日正午より午後二時頃に港灣事務員を現場の神仙臺停留所に派遣し電報及郵便の受付を爲し其他の時間にありては…の交換の如きは局員を介し通信の利便を計り居れり患者及び保菌者の數は前に述べたる如し患者中死亡十一名全治五名現在治療のもの（十一月五日調）五名保菌者中全治十八名現在治療中のもの四名あり而して現在治療中の患者は既に快復期に向ひつゝあるを以て本月中には解放の運びに至るべし尚保菌者の其後の經過は孰れも良好にして遠からず解放すべき見込なり本所の病舍はペスト及び他の傳染病の二に區別され當初今回の如き多數收容を豫想し設備を施せしものにあらざれば一時の處置として重症患者はペスト病舍に

▲快復の見込み　あるもの及び保菌者は他の病舍に收容する等臨機の處置を取りたり終りに四日市に於けるペストは漸次蔓延の兆候あり本所にては之れが襲來を豫防のため嚴に税關に對し捕鼠の勵行を交渉し檢鏡調査を試みたるに現今にては何等病菌を見ずペスト菌は偉大の傳播力を有し一朝之れが襲來を見るや商工業は休止の悲境に陷り慘狀を極むべきに依り此際之れを未然に防止する樣各自の自衛警戒を望む（釜山海港檢疫所長宮吉村直二郎氏談）

▲便船每に發送　の取次を爲す事として一般停留者に成るべく不便を感ぜしめざる樣に努め又電話



神仙臺檢疫所

◉潜水器に身を固めつゝ
逆轉!!宙返り!!見ん事大失敗

ホースを傳つて來る護謨臭い空氣と潜水服に沁み込んで居る揮發油の匂が鼻を衝くので倏忽の間に逆上せて咽喉のあたり括約筋と胃袋から逆上する流動物とが惡戰苦鬪を始め出した、此れ丈けでも僕の苦痛は一通りでなかつたが冷酷な助さんは更らに三貫目もある鉛を後と前に結びつけたので外見は恰も

‖海底の惡魔の樣‖ に眼光炯々、狀貌奇怪獰惡を極めて居り乍ら中では七轉八倒の苦悶、身を支へる事も出來ずに、あはや男の面目も、意氣地も、體面も泣き濟して助さんに救を求める處であつた『ソラ足を揚げねソラソラ』助さんと吉さんは始末に負へぬ程意久地のない怪物の胴と足を取て梯子の處に運んで徐々と海の中に卸し初めた梯子から手と足を離してグイ〳〵と海の底へ下つて行く心持は云ふに云はれぬ恐怖と不安に充たされてゐる始めの間は薄藍色の水の色も馬鹿げて大きく見ゆると言つた海藻も魚も石も何にも見ゆね

‖只脈膊の鼓動が‖ 激しくなるばかり、グイ〳〵と降る毎に今度は逆轉かとヒヤ〳〵する、呼吸は次第に切迫する、僕は餘りの苦しさに腰に結びつけた綱を引張て揚げて呉れと信號したが揚げて呉れる處か同じ處へブラ下げて置いたまゝ上げても下げても呉れぬ、焦れて二三度グイ〳〵と引張ると其の拍子に身體がフワリと横になつたかと思ふとアツと叫ぶ間も無く、逆轉!!宙返り!!鐵槌で打たれた樣な感じがしたかと思ふと

‖體は護謨鞠の樣‖ に海上に浮び出で助さんと吉さんの手に依つて艀の中に收容された、後で聞くと始め足が著いた〳〵と信號したので綱を繰り下げないで居ると續いて海鼠の袋を下げろと二三回信號したから奴さん味な事を遣る哩と思つて居る間にヒヨイと兩足が水上に高く飛び出したので腹を抱へて笑つたとの事だ、此れで僕の第一の潜りは見ん事失敗に終つたのであつた助さんは『泡を喰ふから信號を間違ねたりケレップを押すのを遺れて空氣を餘分に詰て浮上つたりするだ』と言つて今度は自分で潜つて見せた助さんの

‖潜り振りは流石‖ に熟練もので百三四十斤の潜水具を身に著けても平氣で歩いて、然も梯子を降りて窰し反つたかと思ふとブク〳〵〳〵と泡を發し乍ら巧みに沈んで行つた、助さんは潜水夫の中でも名人の方で二十尋位の海で四十分位は作業して居るし十尋位の處では三時間でも四時間でも平氣だと吉さんが話して居る處へ鮑と赤い綺麗な海藻を持つた助ざんがポックリ圓い三ツ目の頭を波の上に突き出した

◉南鮮の鯛が仁川に來る

虎疫の影響で不況續きの初夏から晩秋にかけて京城仁川及び沿線等に於て需要さるゝ鯛は重に仁川鯛と言つて忠清南道價誼島近海及び黃海道沿海より漁獲せらるゝものであるが本年の仁川鯛漁獲は

▲未曾有の不成績　の裡に終りを告げ數日來釜山統營方面から供給を仰いでゐる此れに就き仁川水産會社久保田支配人の談に依れば仁川近海の盛漁期は晩春から初夏までであるが九、十の兩月は秋漁期の中心となつて居る然るに秋漁の最も盛んなる可き九月中旬から約一ヶ月間に亘つて虎列剌病が發生した爲め魚類は全く需要されず、百餘艘の内地通漁船は倉皇として歸國すると言ふ始末で

▲書入季節として　賑ふ市場も殆んど火の消えた有樣であつた從つて會社の營業成績は七、八の兩月は昨年の同期に比して四五千圓以上の增加を見たにも拘らず惡疫發生以來は九月が昨年同期の一萬五千圓に對する一萬圓十月が一萬三千圓に對する六千圓と言ふ極端な減額を見るに至り各漁船の如きも數百圓の純益を持つて歸國すべき者が反つて船問屋から仕込みを受けたまゝ多數の負債を背負ふて歸つた者が大半を占めて居た現在では十數艘の地船と通漁船が

▲纔かに三十數艘　出漁して居るに止まつて居るが此れとて漁期の過ぎ去つた昨今では思はしい漁獲も無かる可く殊に通漁船の如きは船問屋に對する債務の關係上仁川へ寄著かずに直接内地に引揚げる形勢であるから今後仁川鯛の市場に現はるゝ量は殆んど問題になるまじく十一月以降三四月頃迄は海に臨んで却つて京城よりも鵬い魚類を膳部に上せねばならないのである（仁川）

◆初霜と雪、氷（觀測所報）

地名	本年	昨年比較	平年比較
初霜			
江原旌善	十月十七日	早十一日	—
同 洪川	十月廿五日	—	—
忠南瑞山	十月廿七日	早一日	—
慶南馬山	十一月二日	晩五日	—
初雪			
江原洪川	十月廿六日	—	—
初氷			
平北昌城	十月廿五日	晩二日	—
咸北鏡城	同日	晩十九日	—
京畿長湍	十月廿六日	—	—
江原洪川	同日	—	—
同 華川	同日	—	—
咸北富寧	同日	晩五日	—
同 明川	同日	早一日	—
黃海黃州	十月廿七日	—	—
同 載寧	同日	早一日	—
同 新溪	同日	早一日	—
平北[illegible]	同日	—	—
咸南北青	同日	—	晩十日
咸北城津	同日	早一日	早五日

◉雨中の發火演習
△仁川商業學校の壯擧

仁川公立商業學校生徒は七日午前四時學校に集合同六時半桃山方面に出動して發火演習を爲したり夜來の雲は低く垂れて天地陰慘を極め雨蕭々たりしも百二十の健兒は

▲勇みに勇んで　平山農園附近に據り假設敵演習を試みたり此時雨は漸く降り頻りたれ共競ひ込んだる全軍は一齊に假想敵に銃火を浴せつゝ敷島方面に追擊し此處に於て衝突の上休戰し朝食を喫したり、時に午前九時半、朝飯を喫し終れば全生徒を二分して平山農園と桃山の中間山野に於て遭遇戰をなし更に

▲猛雨を冒して　一隊は火葬場に一隊は桃山に陣し對抗演習を試みたるが全軍の意氣頗る軒昂、恰も實戰を見るが如き感ありて同十一時半歸校したり

東西合併大相撲
（七日午後十時著電）

七日目も引續き好景氣にて開場したり當日の勝負及び八日目の取組如左

△七日目勝負（〇印は東京方）

勝　負　勝　負

〇清瀨川　梅若　〇太刀嵐　大鳥
〇國見崎　荒山　上州山　〇玉柳
朝風　〇一港　〇大門岩　朝日嶽
〇常の花　駒ケ嶽　鳴門岩　〇四國洋
〇敷島　藤見嶽　〇荒玉　龜鶴山
〇逆鉾　金の花　〇駒泉　大砲
宮木山　〇紅葉川　〇龍ケ崎　響矢
朝山　〇成瀨山　〇岩木山　玉櫻
〇黑瀨川　大達　小常陸　時ケ嶽
〇宇都宮　朝日潟　〇寒玉子　朝千鳥
〇朝緑　分　西の森　綾川　大門
〇時の矢　〇對馬洋
〇栃木山　加古川
不知火　〇兩國
〇大錦　千舟川　〇西の海　有若

△中入後

〇朝日山　荒山　〇大の川　小若島
〇宮城山　大嵐　〇源氏山　日出山
〇釋迦嶽　荒岩　二瀨川　〇土州山
〇伊勢濱　大泉

九州山　朝日山

右の内▼紅葉川に宮木山は紅葉突張りしを鋭く突き進み左手を當て押切らんとするを巧みに打棄つて宮木の勝▼黑瀨川に大達は左四ツ強引に吊り出して黑瀨の勝▼小常陸に時ケ嶽は烈しく突き合ひ時春りに張手を用ひしが遂に突き出して小常の勝▼宇都宮に朝日潟は突き合ひ左四ツとなりしを宇都右四ツに卷き代へ強引に吊り出して宇都の勝▼綾川に大門は突き合ひ左四ツとなるや大門下手投を打つて寄り進むを綾殘して廻り込み寄ると見せて捨つて勝▼時の矢に對馬洋は時立ち上りさま左を筈に當つるや遮二無二押進み對馬の逃ぐるを追つて遂に押切り時の勝▼栃木山に加古川は左四ツ加古足癖に行くを拔き上げ吊り出して栃木の勝は元氣▼大錦に千舟川は千舟張手を用ひて突張りつゝ錦の左手を引張り込み掛げに行かんとするを遮かさず押倒して錦の勝▼西の海に有若は有双筈にて押進みし時は西危かりしが殘して左四ツとなり西下手投を打ちしが利かず有瑞て寄り進むをウッチャりて西の勝△中入後　源氏山に日出山は左四ツ源氏上手投を打ち殘るを寄り倒して勝▼釋迦ケ嶽に荒岩は左四つ荒喰ひ下がりて寄るを上手投にて釋迦の勝▲二瀨川に土州山は右四ツ吊身に寄り倒して二瀨の勝▲伊勢濱に大泉は左四ツ無雜作に吊り出して伊勢の勝▼九州山に朝日山は突き合ひ朝右を差して肩透かしを引きし時は九危ふかりしが殘して左を當てゝ押切り九州の勝にて五時二十分打出したり

△八日目取組（右大阪方）

（朝風（小若島（鳳車（駒ケ嶽
大門岩　國見崎　成瀨山　駒泉
（朝日嶽（鳴門岩（龜鶴山（金の花
逆鉾　龍ケ崎　一港　敷島
（大砲（響矢（朝日潟（初嵐
荒玉　紅葉川　土州山　朝緑
（朝山（大嵐（宮木山（大門
宮城山　寒玉子　黑瀨川　大の川
（時ケ嶽（朝千鳥（有若（時の矢
釋迦嶽　岩木山　宇都宮　源氏山
（西の森（日出山（大泉（千舟川
小常陸　九州山　對馬洋　兩國
（二瀨川（荒岩（加古川
綾川　伊勢濱　大錦
（朝日山（不知火
栃木山　西の海

▲英國陸軍が多勢の飛行機を使用して英佛海峽を橫斷したり敵國の飛行機飛行船の侵入を警戒して居る事は一般に知られて居る事實であるが▲つい此の頃も英軍に從軍して大陸に行つて居つた某新聞記者が所用あつて倫敦に歸り再び職地に歸るに當り陸軍省を訪問してこれから又戰地に還り度いのだが飛行機に乘せて行つて貰へますまいかと頼んで見ると▲陸軍省では其れは譯の無い話だすぐに飛行場へ行つて佛國行きの飛行機へ乘つて行き給へと恰度馬車へでも乘せて吳ろ位の手輕のものだ▲そこで記者が飛行機集合地へ行つて見ると十數台の飛行機が機首を並べて佛國の方から天候恢復の報が待つて今發つと云ふ處だ、早速記者は布團のやうな飛行衣を著せられて機上の人となつた▲此の布團のやうな著物は高空中で寒氣を防ぐのと飛行機が海中に墜落した折り、浮嚢の用を爲すものである▲さて記者はどうして行かうと云ふと鞄の一つや二つなら機底へ縛り付けて行けば大丈夫だ百五十斤もある爆彈を積む飛行機だからと云ふので早速其の通りにして英佛海峽二十哩を僅かに八分で通過して戰線に向つたそうだ

御見送り下されたる方々の御芳情を拜謝す
汽車中にて
小松綠
壽々子

京日案内

普通一回前金一行三十錢　番外一回前金一行六十錢　申込後中途掲載中止の節は料金返戻せず

【普通】

◉藥劑師入用　御希望の方は本人御來談被下度候　黃金町三丁目　小笠原藥房　663

▼古樂器と古本で御立替を致します　本町二◉電二五二七◉　ウツボヤ書店　591

狂犬病豫防注射　犬猫診療入院　册五錢◉本町三の七十番地　電話取次一一四一番　高木獸病院　668

壯男入用　身體强壯勞働に耐へ得るもの本人來談　龍山元町一丁目（電話一五四番）　島山西吉商　364

◉店員二名入用　希望者は本人身元確實なる要保證人あれ　市内に　本町三丁目　三宅羊服店　365

△電ヤスシ　八四四番至急讓る　西四軒町一四一　宮崎　66

○なべ燒○一の家の○すき燒○ひげせんざい　旭町一丁目　月の出湯隣　一の家

◉貸家　温突付日本建五間半　官吏別莊的　三坂通兵營上　管理人　龍山印刷局先　畑中　606

古本なら野村　買入誠實御報參上　明治町筋違二六三六　野村書店　636

◉古本熱心高價買入◉是非御試賣を乞◉電話二七八一番　▲御報參上▲本町四▲書肆　群書堂　641

◉店員及手代入用　青葉町百廿番地　大橋大三郎　657

【番外】

金融　月收の御方へ極秘に大小口共信用勉强融通並に抵當擔保貸付御報伺又御來談　大和町三丁目三二（柄澤の前）　起木屋　659

ミシン　針油部分品全部取揃○修繕確實○地方代金引換　電話御注文次第持參　京城鍾路二ノ二七　電話一三三八番　楠商店　669

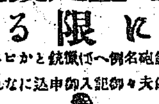
南大門通一丁目　電話二一九番　廣橋自働車　京城春川間每日午前八時出發　賃金片道四圓　主務　金正淵　630

內地材製材乾燥　家具木取　販賣　付次第見積書送る、注文は圖面◉鑛山用ゆり鉢◉　鹽地櫻栓櫻柱價其他雜木各種　本明雜木製材所　黃金町三井物產前　585

鑛山經營　金石商會　重石買入　▲鑛物分拆並に鑛山測量製圖　京城鍾路二の九九　電話一八九九番　604

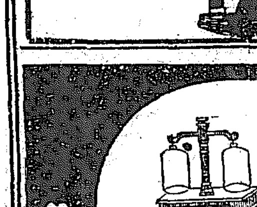
恩給年金低利長期即金立替　▲當分最長期融通▲京城永樂町一　商品陳列館表門前　江州屋本店　654

礦物定量分拆　京城府太平通（朝鮮公論社左小路）電話一三四四番　坂元分拆所　655



鐵砲は横濱の金丸銃砲店に限る
（御認のみ銃砲名例へば獵銃とかピストルとか空氣銃とか其他夫々御記入御申込になれば定價表郵呈）

拙者は
かぜの神である、年中あらゆる人間の油斷をのみ覗ふてゐる、而も今は拙者の最も得意の時候だから、ドシ〳〵肺炎や窒扶斯の種を蒔て苦しめてやる、其中酷く侮る奴は容赦なく殺して了ふ、然しハカリ印のヘブリン丸は拙者唯一の强敵である、拙者が如何に暴力を振ふても忽ち擊退されて了ふ。實にハカリ印のヘブリン丸には流石の拙者も兜を脫がざるを得ないのである。

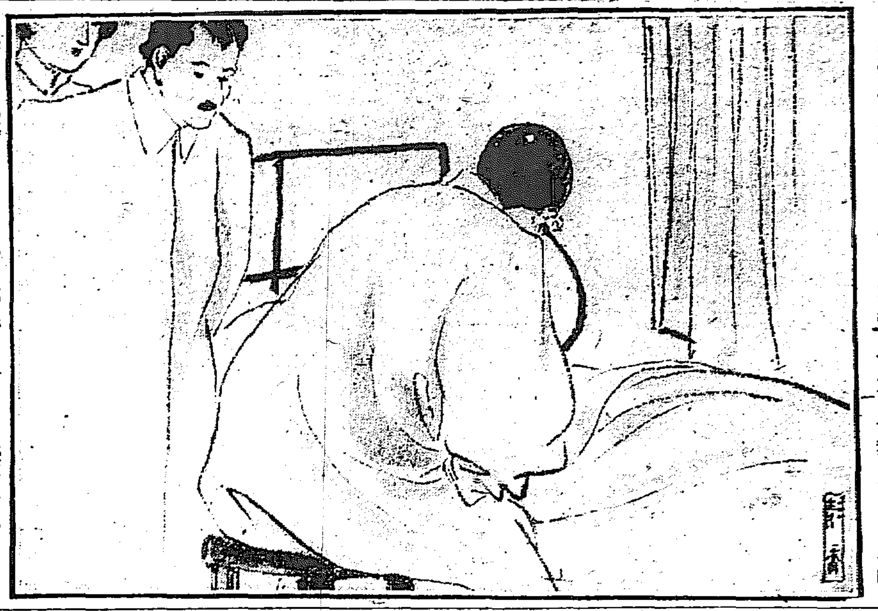


本舗　大阪　合資會社　參天堂藥房
此ハカリ印に御注意を乞ふ

女鳩 渡邊默禪

（一五三）悲しい宣告

鰭山子爵から電報を示されて平馬老人は胆を潰した。電文は只主人が負傷をしたといふだけであつて、詳しい事は判分らぬけれども、態々の博士を連れて來てくれとあるからには、餘程の重傷であることが推せられる。何さま非常の事變なので、直にも自分が鰭山子爵と同道急行しなければならぬのであるが、只困つたのは實物庫の一件である。倘しも此



僕打棄て、出發したならば、跡で秀子がどんなことを爲るか知れない。となると輝子を生きた人質にして秀子の急處を抑へ、心から反省させて今までのやうな濫行を斷たせてやり、同時にその壓迫に虐げられてゐる住江を救はうとした自分の苦心が徒勞になる。

ひたと困りはてた老人は、最う包み切れなくなつて委細を鰭山に明した。子爵は薄々秀子のことを知つて心配してゐた矢先だつたので、爾うい事情ならば貴老は行くには及ばぬ。何處まで秀子の監視と住江の保護とを續けて、自分の歸京を待つがよい。義弟の一身は自分が引受けるからと責任を負つてくれた。老人はほつとして凡てを子爵に托した。

同夜のうちにも出發したかつたのであるが、出張診察の依頼をした呉羽醫學博士の都合で存外に手間取らされた子爵は、翌日一杯さん／＼の氣を揉まされて、やつとのことに上野驛まで漕ぎつけたのが二日目の早朝だつた。博士の外に熟練な看護婦二名までも同行した。

その晩山形驛に著くとホテルの主人が見張つてゐた。鰭山様ではございませんかと言葉をかけた。子爵と博士は一とふり主人に事實を聞糺してからホテルへは寄らずに直と病院に向つた。大野と生駒を二人で出迎へて休憩の暇もなく病室に伴つた。鳩子は叔父の顏を見ると只もう胸が一杯になつて、何にも言はず涙含んだ。

呉羽博士は院長と内科主任を立會はせて診察にかゝつた。臨床の時間が割合に短かつた。大河野子爵の容態は素人目にも大分快くなつてゐた。只意識が朦朧として、をり／＼物を言ふのが癡鈍した舌神經に操らるゝ妄語のやうに聞えた。夕刻から少量の肉汁や牛乳を攝るやうになつたけれども、それも夢中で啜るやうに見えた。

『如何でございませう、先生』

診察が濟んで別室に席を移してから、鰭山子爵が待ちかねてゐたやうに口を切つた。どんな宣告が下るか、生？死？希望？絶望？光明と暗黒との分れ目である。と思ふと鳩子も大野もぎり／＼と渾身を引緊めらるゝやうな氣がして、心臟にせゝらぐ血が戰ぐやうに高鳴つた。

無遠慮主義で名の通つた此人は、眞向からさて何をか言ふ。或ひは空竹割の初太刀でぶへりと吃はすのではあるまいか。

『大丈夫です！』

一同の眼は驚喜に輝やいた。

『ね、ッ！』

ぐるぐるツと體の熱が戻る。遠からず快くなるゝでせう。

『生命には關しません。』

『あゝ、爾うですか。』

子爵はほつと息をした。大野と鳩子とは目を見合せて莞爾とした。

『併し事によると頭腦の調子が狂ふかも知れません。』

『ね、頭腦が?! と、どう……』子爵は詰寄るやうに顏を覗詰めた。

『精神に異狀を來すんですよ。識別力が無くなるんです。』

『へね！』子爵は儼かに喪然。

あゝ歡悦び、擽喜び！何といふ情ないことぞ。父は遂に精神病者になるのであらうか。

大野が愴然として顧た時に、鳩子はしく／＼と泣出してゐた。

回烏兎大人送別句會吟

前後二年の間公州の俳壇を指導せられたる小原烏兎大人の榮轉せらるゝに當り藏谷石香の發起にて十一月三日の佳き日を卜し送別の爲め一夕の雅宴を催されたるに偶々烏兎大人出迎として出張せられたる清木静軒も參り合はされ清雅の裡何となく別れを惜む秋の一夜を過されたり

秋の別（菊）

水車場は薫ぜり暮の秋
堂古りし南無彌陀の前菊盛る　可舟
詩に錆きて秋の別れの悲し
咲き驕る菊も添木の力かな　游香
白雲一朶高原の秋暮れにけり
食堂の灯赤く菊白し　文の舎
秋名殘官邸のポプラ夕映す
君が代の合唱菊の盛りけり　神岳
君は行く賑ざつるゝ暮の秋
培へど醇れそうなしおらが菊　黄村
晩秋の鮮家に淡き烟かな
句を題す遊座に菊の香りけり　桂川
秋既に別れとなりて鬢早し
菊悉く出盛る朝を薫りけり　雨村
行秋を補の貨赤き部落哉
丹精の菊や菊の賑白き　材無
行秋を無銭に閑居の男哉
香包て菊一輪の所敷かな　無極
一堂に告別の辭や菊の秋　孤舟
行秋や籬に干せる細大根
暇あるに委せて作るおらが菊　奇石
秋深し西風吹いてポプラの葉
合掌や瞑目無心鑒の菊　友萍
暮の秋知己の名簿を修しけり
總化村に薔れき家や菊薫る　如風
行秋な冠者の祭り寄めけり
書かである銀短册や菊の花　兎香
西へ西へ鳥獲き日や秋の行く
鮮人に隣して葉酒に菊合せ　石香

送別

草も木も名殘を惜む暮の秋　桂川
惜しけれど紅葉を京の旅なれば　文の舎
冬近し君は都に紅葉照る　黄村
野も山も今日を名殘の紅葉哉　静岳
古都を慕ふ下夜はおはせ京の秋　雨村
鵯の鳴く木下に別れ惜む今日　可舟
幸多き師の門出や秋晴るゝ　奇石
瞳避いて急ぐ別れやふところ手　友萍
構にして秋分つや秋の水　無極
自動車の轍に名殘る邑の秋　不諧
移し植ゑて菊一倍の薫り哉　如風
戯語も殘ろシガーも殘ろ火鉢哉　兎香
川うれりくれり邑見ゆ暮の秋
萬歳の三唱菊の揃ひけり　静軒

○

行秋の山河に見入る名殘かな
赴任や菊咲きほこる鮮の疆
惜別
うたへども人に別るゝぞゞろ寒　烏兎

新刊紹介

▲全國兒童賀表捧呈　實業之日本社發行『日本少年』『少女の友』の首唱にて成立したる全國兒童賀表捧呈會にては全國兒童の謹書したる賀表十餘萬枚に對しホルマリン消毒を施したる上桐の箱五個に分納し之に賀表を添へて同會副總裁たる高田前文部大臣並に會長たる增田義一氏發起者代表として十一月四日東京高輪なる東宮御所へ伺候し恭しく捧呈に及びたりと

▲日鮮通交史（釜山甲寅會編）　一名釜山史也日鮮の通交上最も古く最も厚き關係を有する任那即ち釜山なり釜山の日鮮通交史は唯一片釜山の歷史に非ずして日鮮交通史の一部而も其の最重要なる一部なり全部二册古代今代に分れ其の説く處又た詳細にして史上の好著たるを失はず（非賣品釜山甲寅會發行）

▲萬龍未來記　今度未亡人となつた恒川文學士夫人靜子の前身が數步第一の美妓であつたと言ふ所に特別の感を持つた遊中静義總と再婚せよと云ふ青柳有美、獨身生活を望むと云ふ晩山春子、自由行動を深れと言ふ果文學女優になれと言ふ中平文子其他約二十名が其の後半生に對する希望を述べたものを集めたものである他人の飛躍な頭痛に病む者の好きな人に御薦め申す（三十五錢東京市日本橋區濱町二ノ一二須磨屋發興社）

▲新式文章講話録（創刊號）　文章講話『幸田博士』文章構法『芳賀博士』『日本文章史』『大町桂月』文學概論『三井甲之』等の外現代文壇の驍將の論策に係る論文、小説、紀事文、敍情文、敍景文、評論文、長詩、俳句等の作法及文藝講話其他を收む（會費月額十五錢東京市小石川區東青柳町二九大日本文章學會）

▲わかりやすい堆肥製造の話（工藤第一著）　高價なる金肥に代ふるに廉價なる堆肥を以てするが農家の經濟安全なりとの見地より堆肥の使用を奬勵し堆肥に關する一切の説明を爲せるもの農家は本書に依つて益する所少なからざるべし（二十錢東京市京橋區南傳馬町吾隣室）

▲京城園藝部概況　沿革、設置、概況、規定等を收む（非賣品其館）

▲雄辯（十一月號）　憲政史上より見たる三派合同『大場博士』官僚の會津籠城『柳下魚』個人と國家との關係『サイローピー』吼はれたる大隈侯『川中貢太郎』膝栗毛を讀みて『横山健堂』大西鄕を懐ふ『早川參郎』徳富蘆花を語る『奈良雅堂』及五分間演説發表者の研究其他如例（三十錢東京市本郷區駒込坂下町四八大日本雄辯會）

▲婦人畫報（十一月號）　河原操子女史の筆になる庭の錦『オフセット版』を卷頭に皇太子殿下と二皇子殿下、久邇宮妃殿下、山階宮大妃殿下と女王殿下の御肖像を初め新任各大臣の家庭、後園のまどゐ、樂しきつどひ、秋の嵐山、婦人の居術、諸閨秀畫家、傑作、流行の丸髷と新案束髮、文展出品諸誠伯の傑作及び名流諸令孃の寫眞等華かに記事には三宅博士の一新あゐ婦人、新渡戸博士の修談雜話、佐々木博士の女子敗がたり等の外白澤博士、柳澤伯、忍賀重昂、鳥居藤村其他知士の趣味ある記事賑かなり（三十錢東京市京橋區疊町一東京社）

▲女の世界（結婚注意號）　結婚の精神的注意『山脇博士』結婚の肉體的注意『羽田乾臣』結婚する迄『獨身諸氏』結婚と同棲と何う違ふか『野村宏』早婚か晩婚か、結婚進化經路、離婚の新研究『菅柳有美』夫婦和合の秘訣『高木博士』所謂離婚の五郎の心理『慈人冠』等の外結婚に就て各方面より諸名士の觀察せる記事を満載す（本號に限り三十錢東京市麴町區有樂町一の四實業之世界社）

▲大田實業協會報（十月號）　商習慣改善の研究『大田地方經濟狀態』安井辨耳製造工場、宋木綿製織所、儒城の西瓜栽製造等の外同地商況、統計等を收む（定價不詳大田本町一大田實業協會）

▲東洋時報（十月號）　小松原英太郎氏の経濟觀察談、横井博士の朝鮮農事視察談、吉田虎雄氏の支那に於ける列國の鐵道競爭等の重要記事を收む（五十錢東京市麴町區內山下町一ノ一其社）

▲財政經濟時報（十一月號）　市町村財政と小學校費の負擔、農工業金融に關する細論の二『本多博士』歐洲交戰國の最近財政經濟事情『臺灣善之介』支那現時の金融事情『荒至生』等の外財界の近情、當面の政局、世界と日本、時局と商品調查其他如例（二十七錢東京市京橋區尾張町一ノ一其社）

▲天地之公道（工藤茂三郎著）　五錢東京市小石川區小日向臺町一ノ五三中勝館

▲消防新聞（一ノ六）　七錢五厘東京市芝區櫻田久保町五其社

▲百花園營業案內（自大正五年十月至大正六年九月）　無代兵庫縣川邊郡山下村百花園爾苗場

▲大阪朝鮮貿易商報（十月號）　五錢大阪市西區北堀江裏通一ノ四其社

▲法律世界（二〇八）　六錢大阪市西區土佐堀裏町二四其社

▲名古屋商業會議所月報（九月號）　定價不詳名古屋商業會議所

▲婦人修養之栞（第三輯）　會員組織東京市牛込區市ヶ谷加賀町婦女界社

神經衰弱の原因及療法

腦神經衰弱の人は讀め　腦の惡き人々は實行せよ

■國家と神經衰弱

文明の進歩と共に、醫術も益々進んで行くので色々の惡い病も追々減つて行くのであるが、神經衰弱ばかりは反對に文明の進歩と共に盛になつて行く。日本の人口は平均一年毎に一千人に就き十五人といふ割合で増して行く有様で、國家としての進運は、世界のどの國よりも有望であるが、併し斯うして増してゆく人の數に、文明と共に進む神經衰弱に冒される人が多かつたら、如何に數が多くても質が惡いのだから餘り國家發展上有望ではなくなつて仕舞ふ。そこで我々は誰も一應は神經衰弱の原因や養生法を知つて置いて、之を豫防し、又罹つた上は早く治す丈の準備をして置かねばならぬ。

■其原因

遺傳。貧血性。酒精脂肪過多。鉛又は煙毒。水銀の中毒。性慾の不攝生。頭腦過度の使用。睡眠不足。心痛。營養不足。慢性腸胃加答兒。耳鼻の障害其他急性疾患等が神經衰弱の原因である、が右の中で諸種の病氣に伴つて起る神經衰弱は、其病氣その物が原因といふよりも、睡眠不足の爲に營養が不足したりするのが主因である。

■最近發見の原因

以上の外、前田醫學博士は、其著書「眼と神經衰弱」に於て、博士が新しく發見された神經衰弱の重要なる原因の一つとして眼の事を擧げて居られる。眼の屈折異常、殊に遠視及亂視が神經衰弱を起し、其眼疾の治癒と共に神經衰弱に伴ふ諸症の治癒した實例を擧げて居られるから、眼を大切にするといふ事も亦前に擧げた種々の注意と共に必要な事柄である。

■神經衰弱の徴候

これは前に擧げた此病の原因から推せば大方分る譯であるが、念の爲め言つて見ると、感情と五官の感覺とが劇しくそして過敏になる。頭痛、眩暈、逆上、便秘、不眠の傾向が段々進んで往く。物忘、氣力の減退、推理力の衰へ等が進んで、物事に倦易く何でもない事が大層な事の様に思はれる。精力がなくなり、食慾が減じ體も心も懈く顏色も生色がなくなり、更に進んでは妄想幻想等が頻に湧く。勿論是等にも色々程度はあるが、斯ういふ徴候があつたら先づ神經衰弱と言つてよい。

■神經衰弱と藥

神經衰弱や腦の藥といふものは現今色々あるが、其中にも『島村醫學博士の有効を證明』せられた健腦丸は信用に於て、効果に於て現在尤も優秀なる腦病良藥である。本劑は製藥業界で極く信用の高い丹平商會の設備完全な製藥場で、枝師藥學者達が熱心に研究して調製し、而して常に製造監督の任に當つて居るものであるから、從つて効力も著るしく、殊に逆上を下げ便痛を快くする等の事に迄充分行届いた効力を持たしてある等質に完全といつてよい。

■酒害

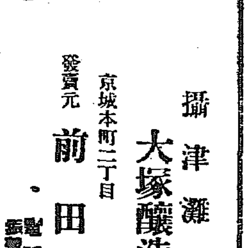
酒害が腦や神經に惡い事は誰も知つて居乍ら猶中々止められぬ。殊に酒は腦卒中、腦充血、中風等の恐ろしい病の原因となるものであるから、現在酒好の人は健腦丸を少量宛持藥とせば、此等の危險なる症を豫防する事が出來る。又平生腦を激しく使ふ人達も持藥にして、記憶力を増進し、神經の疲勞を補ひ、腦力を増進するの効果がある。定價は四十錢より十五圓迄種々あつて本舗は大阪心齋橋及東京沿屋町の丹平商會。內地及海外各地の藥店に販賣してある。先づ一週分を試して御覽なさい。

眼が腦神經に多大の關係がある事が分明になつた以上は、眼は一層大切にせねばなりません。ですから眼にはよく／＼良い藥を撰ばなければなりません。使て大丈夫よくきく眼の藥は先づ直治水が一番でしやう。これは信用高き丹平商會藥房の製劑で、貧に完全な消毒販を用ひ新式消毒點眼器並付きトラホーム其他流行眼一切に安心な藥です。藥價は小瓶十錢、大瓶二十錢です。

大阪 金物新報　金屬に關係ある方は讀め！
新年號（松竹梅三巻）のみ入用の方には大割引　一ヶ年拂込の方に限り三圓四拾錢と郵税五錢
▲定價壹部郵税二錢　發行所 大阪市 大阪金物新報社 振替大阪二一六〇 電話土七四六

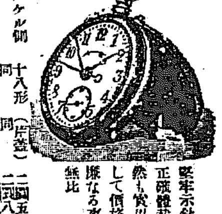
日韓書房 新版報告
浪六著 人生の旅行 定價九十五錢 送料十錢
久保田萬太郎著 駒形より 定價七十五錢 送料十錢
小林一郎著 日蓮主義講話 定價一圓廿錢 送料十二錢
佐々醒雪編 俳句大觀 定價一圓六十錢 送料十二錢
長塚節著 土 定價九十錢 送料十錢
京城本町二丁目 電話一五四・振替口座一一五番

内科 胃腸病　診察夜九時迄
京城本町一丁目 石川醫院 電話一二三七・一二九〇番



攝津灘 大塚釀造所吟製
發賣元 京城本町二丁目 前田酒店 電話一三七番 振替口座四二五番

貯蓄預金　元金百圓ニ付日歩壹錢三厘　金壹錢以上何程ニテモ御預申候
株式會社長崎貯蓄銀行代理店
株式會社十八銀行京城支店　京城黄金町 電話四二〇番 五八〇番 振替貯金口座京城八一四番
同 龍山出張所　龍山元町二丁目 電話一八番
諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候


新荷著 スヰツル製 懷中時計
堅牢示針機安正確體裁優美然も實用的にして價格の低廉なる事天下無比
ニツケル側 十八形（片蓋） 二圓五十錢
同 十六形 同 二圓八十錢
同 十四形 同 三圓九十錢
同 十七形 同 四圓三十錢
同 同 六圓九十錢
同 ラヂューム付 十八形 同 二圓
金バリ 十六形（兩蓋） 十六圓二十三錢
金鍍金 十六形（片蓋） 五圓
同 十年保險 十八形 同 十六圓
同 十年保險 十六形 同 二十圓
銀側 十八形 同 十二圓五十錢
以上三百圓迄各種
右は今回新著の商品にて本商會獨り之を有し他店に無き所のものに付伏して御注文願上候、地方遠隔の御注文に對しては代金引換小包にて御便利に奉仕致候
時計、蓄音器、ミシン機械、自轉車、洋酒各國貨直輸入商
本店 京城本町二丁目 イングレツシー商會 電話九七二番

金泉醴泉間自動車時間
上り 金泉發 前八、三〇 一番 二番
下り 尚州發 ……
金泉織居自動車支部 金泉電話四八番
▲小荷物運搬仕り候

大邱浦項間自動車時間
大邱發 ……
浦項發 ……
大塚農場自動車部 大邱出張所 電話一一七番

日本郵船仁川出帆
大連、太沽、牛莊行
相模丸 十一月九日 未明出帆
砂捕丸 十一月廿日 未明出帆
高河丸 十一月一日 未明出帆
三河丸 十二月一日 回漕部
仁川海岸町一丁目 堀回漕部 電話十一番

尼崎汽船仁川出帆
群山、木浦、釜山、下關、神戶、大阪行
有代丸 十一月九日 後四時出帆
大代丸 十一月十九日 後四時出帆
君が代丸 十一月十一日 後四時出帆
神代丸 十一月一日 後四時出帆
秀吉丸 十一月九日 後四時出帆
仁川海岸通一丁目 高杉回漕部 電話五十九番

汽船釜山出帆廣告
門司、神戶、大阪行
立神丸 十月 日後五時出帆
小倉丸 十月 日後五時出帆
山清津、浦鹽行
立神丸 十一月 日後十時出帆
小倉丸 十一月 日後四時出帆
元山、西湖、新浦、城津、清津行
第三平丸 十月 日後六時出帆
門司、宇品、神戶、大阪行
第三平丸 十月廿八日後六時出帆
佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 毎月二日八日十四日廿日廿六日
天真丸 午後十時出帆
釜山港埋立新町 本船取扱店 大池回漕部

大阪商船仁川出帆
（外航路所屬船は漢洋航路を除く、出帆前時は五分以て乘船切符を發賣仕候）
安東丸 十一月十日 群山、木浦、釜山、下關門司、神戶行
津州丸 十一月廿日
天智丸 十一月十五日 後五時出
木浦丸 十一月十日 群山、釜山、嚴原、鄕の浦、長崎行
信濃川丸 十一月九日
信濃川丸 十一月廿五日 後二時出
群山丸 十一月八日 釜山、横濱行
龍州丸 十一月廿八日 後二時出
潮州丸 十一月十八日
木浦丸 十一月八日 木浦、神戶、大阪行 正午時出
漳州丸
群山丸 十一月十五日 釜山、神戶、大阪行 正午出帆
須磨丸
鎮南浦丸 十一月廿日 南浦、大連行 後二時出
信濃川丸 十二月八日
大連丸 十一月廿二日 大連直行 正午出帆
福州丸 十一月八日
鎮南浦丸 十一月十五日 南浦行 正午出帆
潮州丸
清津丸 十一月 浦潮行（元山出帆）、城津、西湖津ニ寄港
印平丸 十一月十五日
安平丸 十一月廿一日 後二時出
宮島丸
上海丸 十一月廿九日 上海、基隆、打狗行（大連出帆）
基隆丸 十一月十三日 後四時出
湖北丸 後六時出
御注意 朝鮮線並に支那線切符は出帆前一時間迄に購求相成度候
切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二三番
京城切符發賣所 內國通運會社京城支店
●中國四國各港行切符は各港船客に對し一般切符を以て發賣仕候

共同汽船仁川出帆
芝罘、大連行 共同丸 十一月十二日入港 十一月十四日正午出帆
阿波共同汽船株式會社 仁川代理店 本町四丁目（電話一七三番） 野口商會
元山代理店 田口回漕部
京城取次店 河村運送店

朝鮮郵船出帆
全羅丸 十一月十六日 釜山發
京畿丸 十一月十二日
黄海丸 十一月廿三日
成鏡丸 （釜山各港寄港雄基間航路）
京城代理店 松原運送店
稷城丸 十一月七日 元山發
昌平丸 十一月
鏡城丸 十一月十一日 元山より各港經由雄基行 元山發
第二鏡成丸 十一月七日
忠清丸 十一月十三日 城津清津寄港 元山發
平壤丸 十一月十三日
江陵丸 毎日 釜山發
晉陽丸 毎日 浦項發
三浦丸 十一月 長生浦方魚津寄港 釜山發
海州丸 長承浦、巨文島、濟州島寄港
統營丸 毎日 釜山發
天一丸 三日目毎ニ 木浦發
順興丸 十一月 木浦發
慶興丸 十一月十二日 木浦發
公州丸 十一月八日 木浦發
宗信丸 十一月十日 仁川發
江原丸 十一月 仁川發
慶州丸 十一月十一日 仁川發
南陽丸 毎日午前 仁川發

▲下關期米特電
▲更に新高値
七日の一月